

構造特記仕様書 2017年度版

- §1 一般事項**
- 選択項目は◎印を適用し、◎印が無い場合は*印を適用する。
○印が複数ある場合は、共に適用する。
- 1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。
- 1-2 設計図書は優先順位は下記による。
- 1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 標準図
- 3) 標準図
- ◎鉄筋コンクリート構造配筋標準図
 - ◎鉄骨工作標準図
 - 鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図
 - 高強度せん断補強筋施工仕様書
 - 鉄筋コンクリート壁式標準配筋図
- 4) 仕様書 (◎公共建築協会 *日本建築協会)
- 5) 日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6
- 1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。
- 1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に(含む 含まない)
- 1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。
- 1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は(●意匠図 ●構造図 *設備図)による。
- 1-7 その他

- §2 構造計算ルート**
- 2-1
- | 方向 | 構造計算ルート | | | |
|----|---------|-------|-------|---|
| X | ●ルート1 | ●ルート2 | ◎ルート3 | ● |
| Y | ●ルート1 | ●ルート2 | ◎ルート3 | ● |
- 2-2 鉄筋の継手
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
* 建築基準法施行令第73条(政令第73条第2項)による仕様規定
● 日本建築学会 JASS5(2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
● 日本建築学会 RC標準2010
XY両方向共ルート3及び境界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS5(2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC標準2010とすることができる。

- §3 仮設工事、土工事 (意匠図面による)**
- 3-1 山留め、根切り
3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 * 根切り土の中の良土 ● 搬入良土
盛土 * 根切り土の中の良土 ● 搬入良土
残土処分 ● 場内均し ● 場外搬出処分(*自由 ● 指定場所)

- §4 地業工事**
- 4-1 基礎及びスラブ下地業 (単位mm)
- | 場所 | 捨てコンクリート厚さ | ※(1) | | 厚さ |
|-------|------------|-----------------|---------|------------------|
| | | A: 砕石 | B: 割栗石 | |
| 基礎 | 独立、布 | * 50 * 60 * 100 | * A * B | * 60 * 100 * 150 |
| | ベタ | * 50 * 60 * 100 | * A * B | * 60 * 100 * 150 |
| 地中梁 | | * 50 * 60 * 100 | * A * B | * 60 * 100 * 150 |
| 構造スラブ | | * 50 * 60 * 100 | * A * B | * 60 * 100 * 150 |
| 土間スラブ | 屋内 | * 50 * 60 * 100 | * A * B | * 60 * 100 * 150 |
| | 屋外 | * 50 * 60 * 100 | * A * B | * 60 * 100 * 150 |

- 注(1)アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
(2)端部aは100以上とする。
- ◎設計地耐力 長期 kN/m² 短期 kN/m² 終局 kN/m²
地耐力載荷試験 ● 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) * 行わない
- ◎地盤改良
- 無筋コンクリート地業
 - 締め固め工法
 - ソイルセメント杭
 - セメント系固化材攪拌
 - 圧密排水工法
- [● 載荷試験 ● 一軸圧縮試験] ● 行う (箇所) * 行わない
[● 六価クロム溶出試験] ● 行う * 行わない

- 4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
- 1) 杭種
- PHC杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
 - ST杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
 - SC杭 t mm ● ● ● ●
 - PRC杭 ● I種 ● II種 ● III種 ● IV種
 - ◎ 節杭 ● A種 ● B種 ● C種 ◎ HF-ONA杭105(φ6080・60)B1種
- 2) 工法
- 打撃工法 ● 油圧ハンマー ● ディーゼルハンマー
 - ◎ 埋込み工法 ● プレボリングセメントミルク注入工法
 - プレボリング拡大根固め工法(認定工法)
 - 杭周固定液 ● あり ● なし
 - 中掘拡大根固め工法(認定工法) ◎ Hyper-MEGA工法(認定番号:TACP-0357, TACP-0358)
 - 回転埋設根固め工法(認定工法)

3) 杭径、設計耐力、本数表

杭径(底部部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備考
600 (800)	1,050	2,100	3,150	74	
()					
()					
()					

- 4) 杭の構成は設計図による。
- 5) 杭頭補強
- かご筋
 - ◎ スタッド溶接
 - 杭外周溶接
- ◎杭先端深さ= aL - m
◎杭先端測定= (2方向)
* 行う (●全数 ●%) * 行わない
- ◎使用材料= コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
- | 杭径(底部部)mm | 管厚 mm | 長期kN | 短期kN | 終局kN | 本数 | 備考 |
|-----------|-------|------|------|------|----|----|
| () | | | | | | |
| () | | | | | | |
| () | | | | | | |
| () | | | | | | |
- ◎杭行地業共通事項=
- 1) [● 杭先端先行杭 ● 試験掘] ● 行う (本) ● 行わない
 - 2) 載荷試験 ● 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) * 行わない
 - 3) SL散布 ● 行う * 行わない

- §5 鉄筋工事**
- 5-1 材種
- | 種類 | 径 | 継手 |
|-------------|--|-------------------------|
| ◎ SD295A | D 16 以下 | * 重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接 |
| ◎ SD345 | D 19 以上 | * 重ね継手 ● 溶接継手 ● 機械継手(級) |
| ◎ SD390 | D 29 以上 | * 溶接継手 ● 機械継手(級) |
| ◎ SD490 | D 以上 | * 溶接継手 ● 機械継手(級) |
| ● 溶接金網 | | * 重ね継手 |
| ● 高強度せん断補強筋 | ● 1275級 P
● 785級 K
● 685級 UD OD UR | * フック加工 ● スパイラル ● 工場溶接 |
- 5-2 溶接継手 * ガス圧接 ● 突き合せ溶接(D16以下は重ねアーク溶接でも可)
溶接部の検査(第三者機関による)外観検査全数
◎ 抜取り検査
● 引張り試験 (JISZ3120)
1 検査ロットにつき * 3本 ● 原則 柱・梁の径毎に3本
◎ 超音波探傷試験 (JISZ3062) ● 熱間押抜き試験
1 検査ロットにつき ◎ 30箇所 ●
○ 不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1 検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数量で200箇所以内
- 5-3 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。
- 5-4 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ◎ ①一般 ● ②地反力を受ける ● ③上載荷重が大きい場合 とする。
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

- §6 コンクリート工事**
- 6-1 設計基準強度 (N/mm²)
- 1) セメント ◎ 普通* トラッド*セメントJISR5210 ● 高炉セメントB種 ● 低熱* トラッド*セメントJISR5210
- 2) 粗骨材 ● 砂利 ◎ 砕石 ● 高炉スラグ骨材 ● 人工軽量骨材 ● 再生骨材
最大径(mm) ◎ 20 ● 25 ● 40
- 3) 躯体(使用区分は設計図の軸組図に示す)
◎ 普通コンクリート
● Fc18 ● Fc21 ● Fc24 ◎ Fc27 ● Fc30 ● Fc ● Fc
● 軽量コンクリート(* 1種 ● 2種 気乾単位容積質量 * 18.5 ●)
● LFc18 ● LFc21 ● LFc24 ● LFc27 ● LFc30 ● LFc

- 4) 土間コンクリート ◎ Fc 18 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
- 5) 捨てコンクリート ◎ Fc 18
- 6) 防水押さえコンクリート ◎ Fc 21 ● LFc (気乾単位容積質量 * 18.5 ●)
- 7) かさ上げコンクリート ● Fc ● LFc (気乾単位容積質量 * 18.5 ●)
- 6-2 混和材 *AE減水剤 ◎ 高性能AE 減水剤 ● 躯体防水材料 ● 膨張材
注1. 混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。
- | 箇所 | 基礎、地中梁 | 一般 | | 備考 |
|---------------------------|--------|-----|--|-------|
| スランブ | cm 15 | 18 | | |
| 水セメント比 % | 60 | 60 | | 60以下 |
| 単位水量 kg/m ³ | 185 | 185 | | 185以下 |
| 単位セメント量 kg/m ³ | 270 | 270 | | 270以上 |
- 6-4 試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
- 1) 骨材 [◎ 塩分含有量 ◎ アルカリシリカ反応性] ◎ 行う ● 行わない
- 2) フレッシュコンクリート [◎ スランブ ◎ 空気量] ◎ 行う ● 行わない
- 3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ◎ 行う ● 行わない
- 4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ◎ 行う ◎ 行わない
- 5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) ● 行う ◎ 行わない
- 6) 単位水量測定 ● 行う ◎ 行わない
- 6-5 調査(補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級()は耐久設計基準強度F_d
● 短期(18) ◎ 標準(24) ● 長期(30) ● 超長期(36)
調査管理強度 F_m=Max(F_c, F_d)+S S=3~6
材齢28日の調査強度Fは下記の式を満足するものとする。
F ≥ F_m+1.73σ F ≥ 0.85F_m+3σ
- 6-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)
- | | 基礎、梁側、柱、壁 | スラブ下 | 梁下 |
|----------------|--------------------------------|---|-------------------|
| コンクリートの材齢による場合 | 15℃以上 3日
5℃以上 5日
0℃以上 8日 | 3日
5日
8日 | 17日
25日
28日 |
| 圧縮試験による場合 | 5N/mm ² | 0.85F _c または12N/mm ² | 設計強度 |
- 6-7 住宅性能表示
劣化等級 ● 等級2 ● 等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる場合があるので注意すること。
Fc36を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書(JASS5等)による。

§7 鉄骨工事

7-1 材種及び使用箇所

規格名称	鋼材名	柱	通し	内	大梁	ブレース	小梁	その他
一般構造用圧延鋼材	◎ SS400 ●		ダイヤ	ダイヤ			○	
溶接構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490A ◎ SM400A ●							○
建築構造用圧延鋼材	● SM400B ● SM490B ● SM400C ● SM490C							
一般構造用角形鋼管	● STKR400 ● STKR490							
冷間成形角形鋼管	● BCR295 ● BCP235 ● BCP235 ● BCP325							
熱間成形角形鋼管	● SHC400B ● SHC400C ● SHC490B ● SHC490C							
一般構造用炭素鋼管	◎ STK400 ● STK490						○	
一般構造用軽量鋼管	● SSC400 ●							
建築構造用圧延棒鋼	● SNR400							

7-2 高力ボルト

高力ボルトの種類	使用箇所
トルシア形高力ボルト	* S10T 全般
JIS形高力ボルト	● F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	◎ F8T 母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	● S14T 屋内環境

- 7-3 普通ボルト、アンカーボルト
- 1) 材質 ◎ SS400 ● SS490 (M以上)
● ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490(ABMはM24以上)
- 2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による) ● 使用する ● 使用しない

7-4 頭付きスタッド

径	長さ(mm)			使用箇所
16 φ	● 80	● 100	● 120	● 150 ●
19 φ	● 80	● 100	● 120	● 150 ●
22 φ	● 100	● 120	● 150 ●	● ●

- 7-5 溶接材料
- 1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
- 2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。
- 7-6 スカラップ形状 * スカラップ工法 ● ノンスカラップ工法

7-7 継手

	柱		梁	
フランジ	● 高力ボルト	● 現場溶接	◎ 高力ボルト	● 現場溶接
ウェブ	● 高力ボルト	● 現場溶接	◎ 高力ボルト	● 現場溶接

- 7-8 溶接手法及び管理
- 1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
- 2) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技能検定付加試験を ● 行う * 行わない
- 3) AH検定(工場・現場・代替タブ)の有資格者で、係員の承認を受けた者は技能検定付加試験を免除する。
- 7-9 デッキプレート(単位 mm)
- 1) 床用 高さ ● 板厚 ●
- 2) 合成スラブ用 高さ ● 板厚 ●
- 3) 型枠用 高さ ● 板厚 ● 形板 タイプ
- 4) 防錆処理 ● プライマー ● 亜鉛メッキ ● Z12 ● Z27
- 7-10 錆止め塗装(工場塗 * 2回 ● 1回、現場タッチアップ程度とする)
- 1) 素地こしらえ * ケレン ● プラスト
- 2) 錆止め塗料

適用	塗料		種別	標準膜厚
屋外 室内				
* *	鉛、クロムフリー錆び止め	JISKS674		30μm
	● 一般用錆止めペイント	JISKS621	● 1種 ● 2種	35μm
● ●	ジンクリッチプライマー	JISKS552	● 1種 ● 2種	15μm
● ●	シアナミド鉛錆止めペイント	JISKS625	● 1種 ● 2種	35μm

3) 溶融亜鉛メッキ ◎ 行う ● 行わない

4) 常温亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない

- 7-11 溶接部の検査(受入検査) * 行う ● 行わない
- 1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
- 2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
- 3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
- 4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2007 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
- 5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説」2008により、合格判定は7.2.1度劣を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
- 6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2007」表5.1溶接箇所数の数え方による。
- 7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。
- a) 工場溶接の場合
- i. 検査ロットは各部、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
 - ii. 抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
 - iii. サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合は更に同一ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合を合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残り全数の検査を行う。
- b) 現場溶接の場合
- i. 全数検査とする。
- 8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
- 9) ずれ、食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」等を参考にする。

7-12 鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定(グレード)				
S	H	◎ M	R	J

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

- 8-1 コンクリートブロック
- 1) 種類 ● A種 ● B種 ● C種
- 2) 厚さ mm ● 100 ● 120 ● 150 ● 190
- 8-2 ALC パネル
- 1) 使用箇所 ● 床 ● 屋根 ● 外壁 ● 内壁
- 2) 厚さ mm ● 75 (80) ● 100 ● 120(125) ● 150 ● 175
- 3) 外壁取り付け構法

方向	構法	使用箇所	備考
縦	● ロッキング構法		
横	● アンカー構法		

- 8-3 押出成形セメント板
外壁取付構法及び厚さ mm ● ●
- | 方向 | 構法 | 使用箇所 | 備考 |
|----|-----------|------|----|
| 縦 | ● ロッキング構法 | | |
| 横 | ● スライド構法 | | |

- 8-4 PCa板
- 1) 床及び屋根 ● 床 ● 屋根
- PCa板単独 厚さ mm ●
 - 合成板 ●
- | PCa板厚さ mm | 現場打厚さ mm | 合計厚さ mm | 備考 |
|-----------|----------|---------|----|
| | | | |
| | | | |

- 2) 外壁 厚さ mm ● ●

特記事項	工事名称 徳島中央広域連合西消防署新築工事	図面No. S / 1	工事種別 構造	管理建築士 程野 祐介 一級建築士 大臣登録 第338983号	設計No. -
	図面名称 構造特記仕様書	縮尺 -	株式会社 阿波設計事務所 四国支店 一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号	校閲	設計年月日 2017.9

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2017年度版

1-1 基本事項

§1 一般事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図面に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2015)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

§2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	●	×	◇	○	◎	⊗	⊙	⊚	⊛	⊜	⊝	⊞
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41	
最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46	

- フックのない場合
- フックのある場合
- 本数に差がある場合
- 機械式継手表示
- 溶接継手表示

(ガス圧接、突き合せ溶接)

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋	SD295	D16以下	3d以上
		基礎主筋 帯筋	SD345	D19~D41	4d以上
135°		あばら筋 スパイラル筋	SD390	D41以下	5d以上
		帯筋	SD490	D25以下	5d以上
90°		帯筋	SD490	D29~D41	6d以上

2-1 鉄筋の表示記号

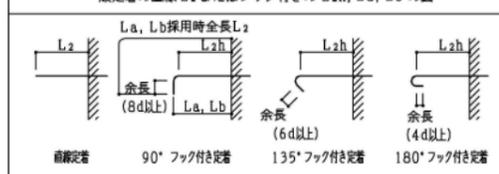
2-2 鉄筋の折り曲げ

2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

「JASS5(2015)」に準拠

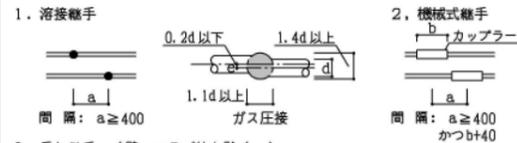
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm ²)	重ね継手の長さ	定着の長さ	
			一般	小梁・床スラブ
SD295 SD345 (はSD345を示す)	18	上層筋 L ₁ 下層筋 L ₂	上層筋 L _a 下層筋 L _b	上端筋 下端筋
		45d(50d) 35d	40d 30d	15d (20d)
	21	40d(45d) 30d	30d(35d) 25d	15d (20d)
		30~36	35d 25d	15d
	24~27	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d)	15d
		30~36	35d 25d	15d
39~45	30d(35d) 20d(25d)	25d(30d) 15d(20d)	15d	
	48~60	30d 20d	15d	
SD390 (はSD490)	21	50d(-) 35d(-)	40d(-) 30d(-)	20d(-)
		24~27	45d(50d) 35d(45d)	40d(45d) 30d(35d)
	30~36	40d(50d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d)	15d
		39~45	40d(45d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d)
48~60	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d)	15d	

一般定着の直線 L₂ またはフック付きの L_{2h}, L_a, L_b の図

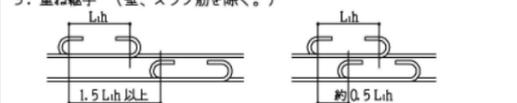


1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きの L_{2h} は仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4 継手一般



2-5 鉄筋のフック



2-6 鉄筋のあき

3. 構造特記仕様書2-2で法令第73条とした場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の重ね継手長さは左下表 L₁ かつ 40d (軽量コンクリートを使用する場合は 50d) とする。
4. 構造特記仕様書2-2で JASS5(2015)、RC規準2010とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の重ね継手長さは設計者の指示による。参考値として左下表 JASS5(2015) に L₁, L₂ を示す。

1. あばら筋及び帯筋
2. 煙突の鉄筋
3. 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部分の鉄筋(下図参照)



2-7 かぶり厚さ

4. D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。(溶接、機械式継手等による)
5. 溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突き合せ溶接の場合は1サイズまでとする。
6. 突き合せ溶接及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。
7. 下記の1.~7. に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。

1. 鉄筋のあき a は原則として下記による。
呼び名の数値 d の 1.5 倍以上
粗骨材の最大寸法の 1.25 倍以上
2. 鉄筋径が異なる場合は大きい方による。
3. 二筋筋のあきは 1.5d とする。

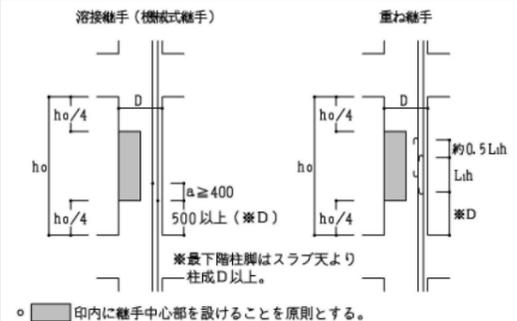
鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部位	かぶり厚さ	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ	30(20)
	床スラブ	30(20)
	耐力壁	40(30)
	柱	40(30)
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁	50(40)
	基礎・擁壁	70(60)

1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 仕上げありとは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
3. ※1 品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で10減の値とすることができる。
4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
5. 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

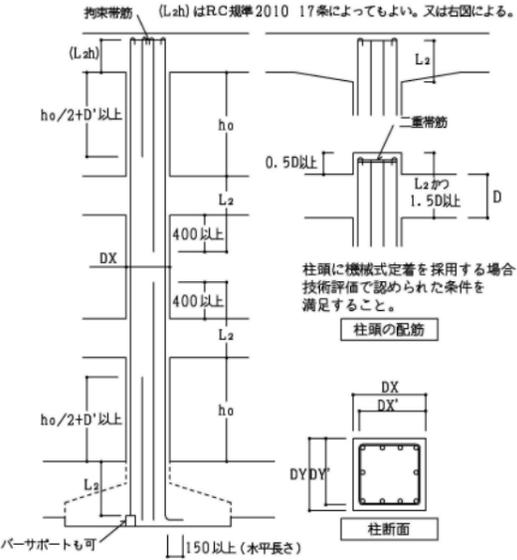
§3 柱

3-1 主筋の継手

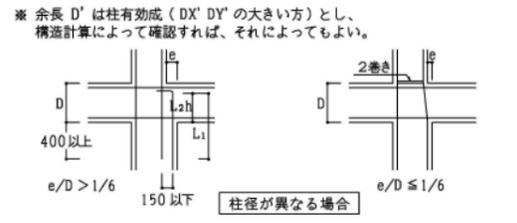


○印内に継手中心部を設けることを原則とする。

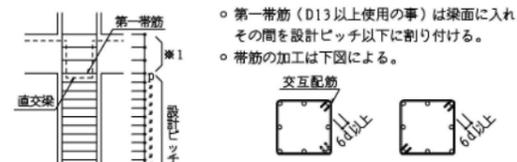
3-2 主筋の定着



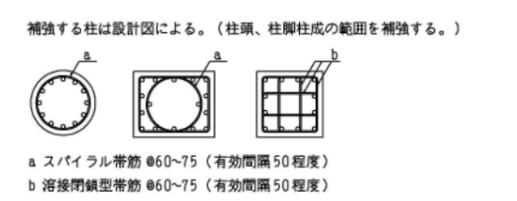
3-3 帯副帯筋



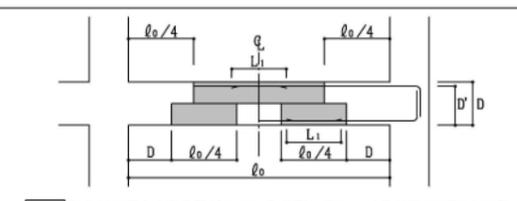
3-4 補助筋



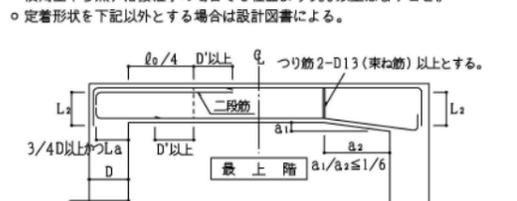
3-5 柱のコンファインド補強



4-1 主筋の継手



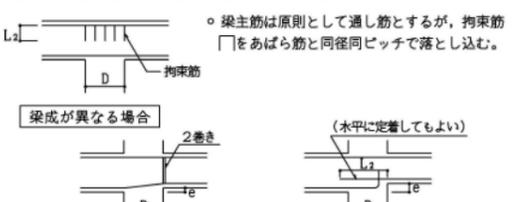
4-2 主筋の定着及び余長



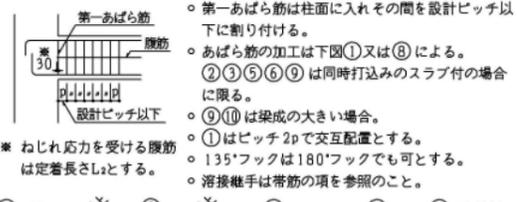
外柱



中柱



4-3 あばら筋副あばら筋



- 補強する柱は設計図による。(柱頭、柱脚柱成の範囲を補強する。)
- a スパイラル帯筋 φ60~75 (有効間隔 50 程度)
- b 溶接閉鎖型帯筋 φ60~75 (有効間隔 50 程度)
- 印内に継手中心部を設けることを原則とする。(告示平12第1463号使用基準参照) 溶接継手の場合でも柱面より500以上はなすこと。
- 定着形状を下記以外とする場合は設計図による。
- 第一あばら筋は柱面に入れ、その間を設計ピッチ以下に割り付ける。
- あばら筋の加工は下図①又は②による。
- ②③④⑤⑥⑦は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
- ⑧⑨は梁成の大きい場合。
- ⑩はピッチ2dで交互配置とする。
- 135°フックは180°フックでも可とする。
- 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。
- ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さ L₂ とする。
- 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。
- ⑩は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。
- 柱面より梁成の範囲は、180°フック又は135°フックが望ましい。
- 補助筋は D10 をピッチ 600 以内に割り付ける。
- 巾止筋を設ける場合は、設計者の指示による。

鉄骨工作標準図 (1) 2017年度版

§1 一般事項

- 1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
- 2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書1-2-4、5に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
- 3) 製作精度等に関しては、JASS6の付則6「鉄骨精度検査基準」による。
- 4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

§2 共通事項

○ AB	アンカーボルト	○ BH	組立てH形鋼
○ BE	ベースプレート	○ CHE	チェッカープレート
○ DFE	ダイヤフラム	○ FB	フラットバー
○ FE	フランジプレート	○ GE	ガセットプレート
○ HTB	高力ボルト	○ RE	リブプレート
○ SE	スライズプレート	○ TB	ターンバックル
○ WE	ウェブプレート	○ Wi-g	溶接記号(§4参照)

§3 ボルト接合

ボルトの長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ
M16	30
M20	35
M22	40
M24	45

1. 特記以外はすべてS10T(トルシア形高力ボルト、上図)又はF10Tとする。
2. 本締め使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。
3. ボルトの接合面の処理は、締付け摩擦面を平グライNDER掛け等を行い、黒皮を除去して一律に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締付けは1次締付け後、マーキングを入れてから本締めをする。
4. 垂鉛メッキボルトの場合は、すべてFBTとする。

3-2 高力ボルトのピッチ

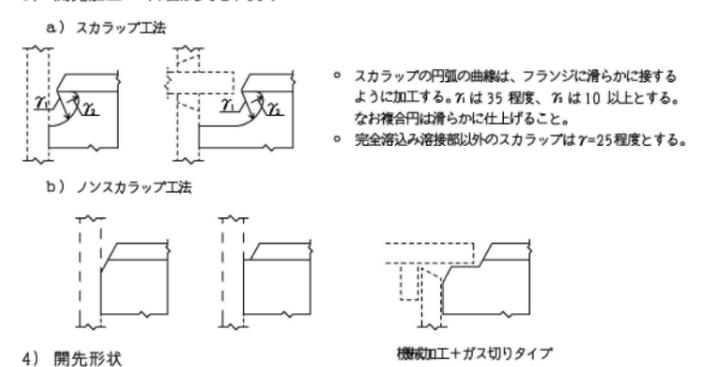
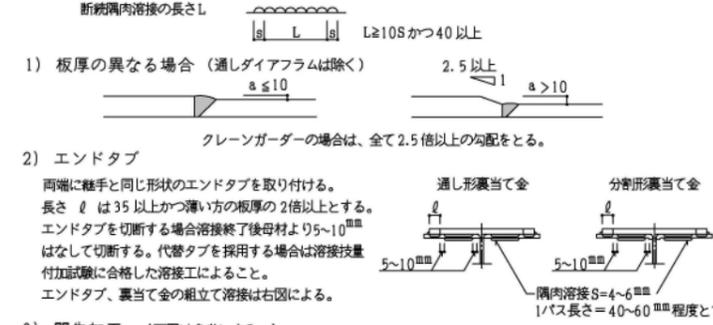
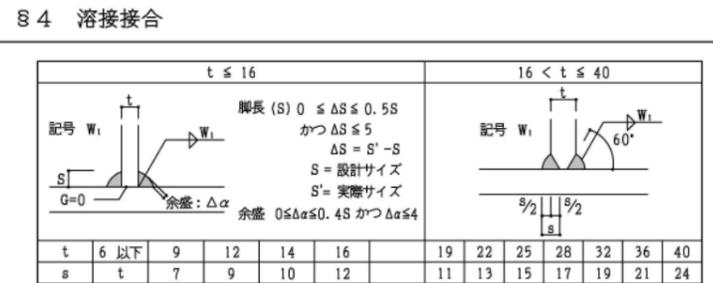
呼び径	M16	M20	M22	M24	
					標準
はしあき	e	40	40(50)	40(55)	45(60)
最小縁端距離	せん断線、手動ガス切断線	28	34	38	44
	圧延線、自動ガス切断線等	22	26	28	32

()内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。

3-3 形鋼のゲージ

A or B	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径
**50	30		16	**100	60		16	**50	30		16
60	35		16	125	75		16	65	35		20
65	35		20	150	90		22	70	40		20
70	40		20	175	105		22	75	40		22
75	40		22	200	120		24	80	45		22
80	45		22	250	150		24	90	50		24
90	50		24	*300	150	40	24	100	55		24
100	55		24	350	140	70	24				
125	50	35	24	400	140	90	24				
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

* B = 300は千鳥打ちとする。
** 印の欄のg及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。



記号	形状	適用板厚	寸法	法
W2 MC-BL-B1 GC-BL-B1		6St	G	7 ⁺² / ₋₂
			R	2 ⁺¹ / ₋₂
W3 MC-BL-2 GC-BL-2		6St ≤ 19	a1	45° - 5°
			a2	45° - 5°
W4 MC-BK-2 GC-BK-2		16 < T	d1	2/3(T-R)
			d2	1/3(T-R)
W5 MC-B1-B1 GC-B1-B1		3~6 6~9	G	T-2
			G	6-2

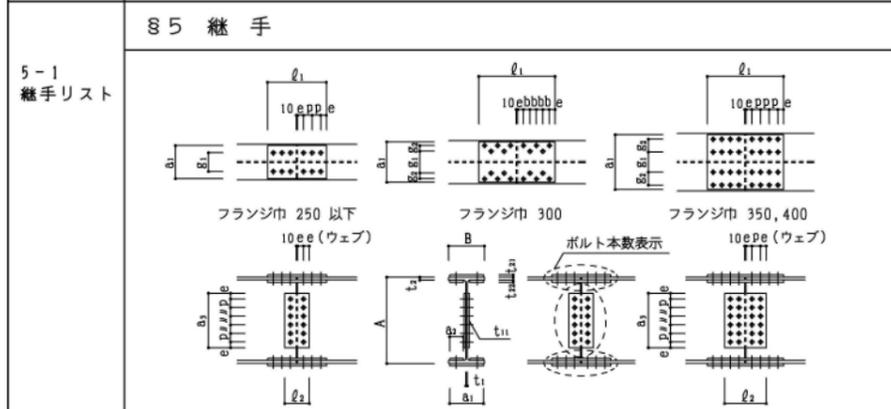
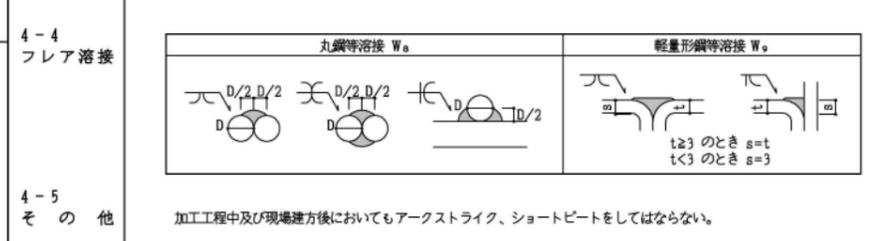
MC... はアーク手溶接 GC... はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

片面溶接 W6 12 ≤ t ≤ 40

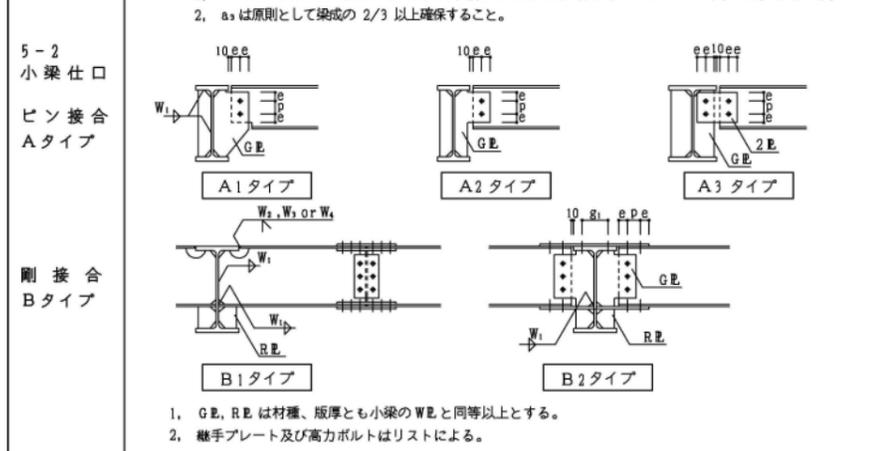
両面溶接 W7 16 ≤ t ≤ 40

t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

D = (t-2)/2
t/4 ≤ S ≤ 10



材種	主材	高力ボルト径	フランジ	ウェブ
	H-A x B x t1 x t2	2E-	外側添板 2E- 内側添板 4E-	添板 2E-
	BH-A x B x t1 x t2	本数	t11 x a1 x l1 t22 x a2 x l2	t1 x a1 x l1
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x
	H-x x x		x x x x	x x



1. GE, RE は材種、版厚とも小梁のWEと同等以上とする。

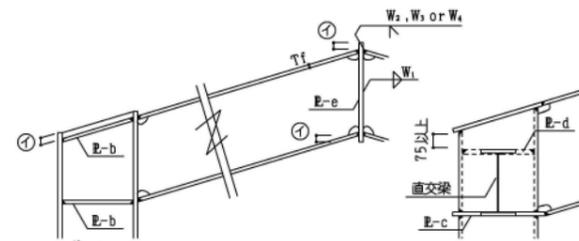
2. 継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

鉄骨工作標準図 (2) 2017年度版

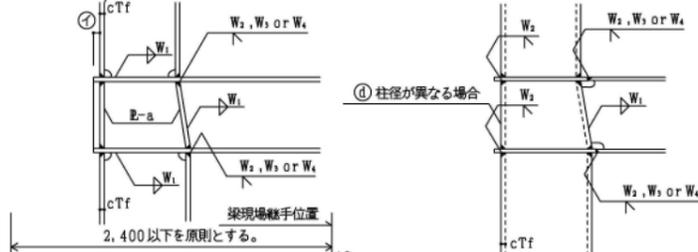
6-6
その他

86 柱梁接合部及び継手

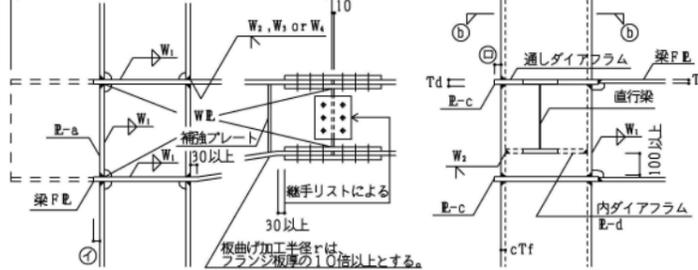
6-1
勾配屋根



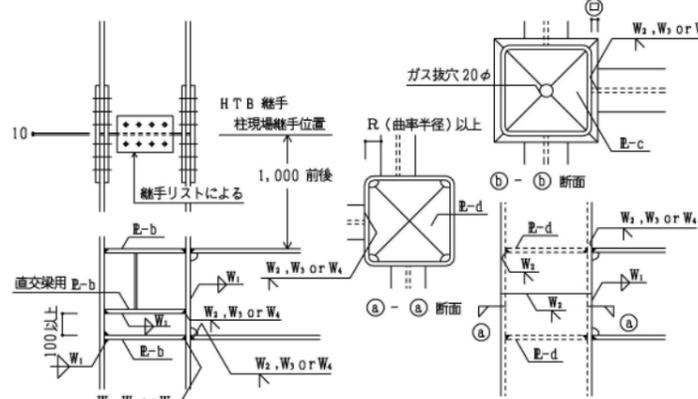
6-2
梁通し



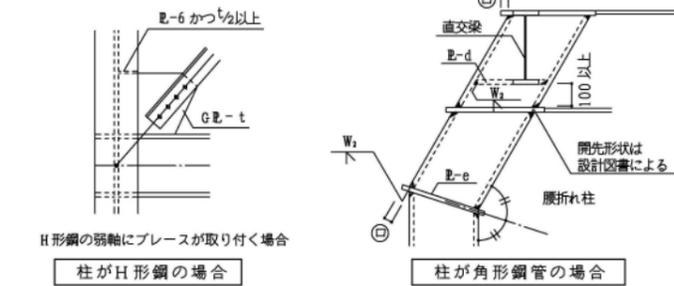
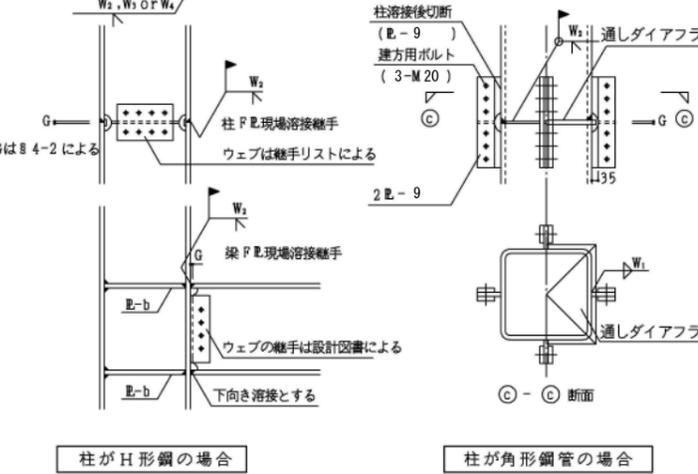
6-3
仕口と継手



6-4
柱通し

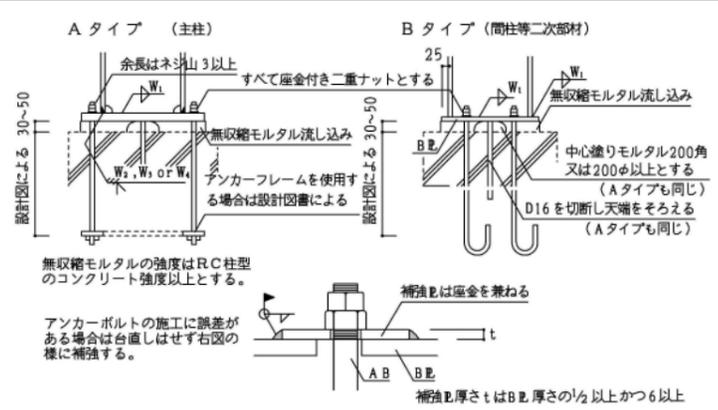


6-5
現場溶接継手



- H形鋼の弱軸にブレースが取り付けられる場合
- 柱がH形鋼の場合
- 柱が角形鋼管の場合
- パネルゾーンのエの厚さ
 - E-a (鉛直スチフナ) 上下柱のFEの厚い方より1サイズUP以上
 - E-b (水平スチフナ) 仕口部に集結する梁の最大FEより1サイズUP以上
 - E-c (通しダイアフラム) 仕口部に集結する梁の最大FEより2サイズUP以上かつ柱のFE以上
 - E-d (内ダイアフラム) 仕口部に集結する梁の最大FEより2サイズUP以上
 - E-e (折れ曲がり部) 梁(柱)のFEより1サイズUP以上
 - 出寸法
 - 25mm かつ cTf 以上
 - cTf ≤ 25 の場合 25
 - cTf ≥ 28 の場合 30
 - 注記
 - ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じとし、材質は上の方の1ランク上質とする。
 - ④(6-2項)上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
 - ハンチ部でFEを折曲げる場合は R ≥ 10Tf とし補強プレートを付ける。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
 - ダイアフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
 - 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行うこと。

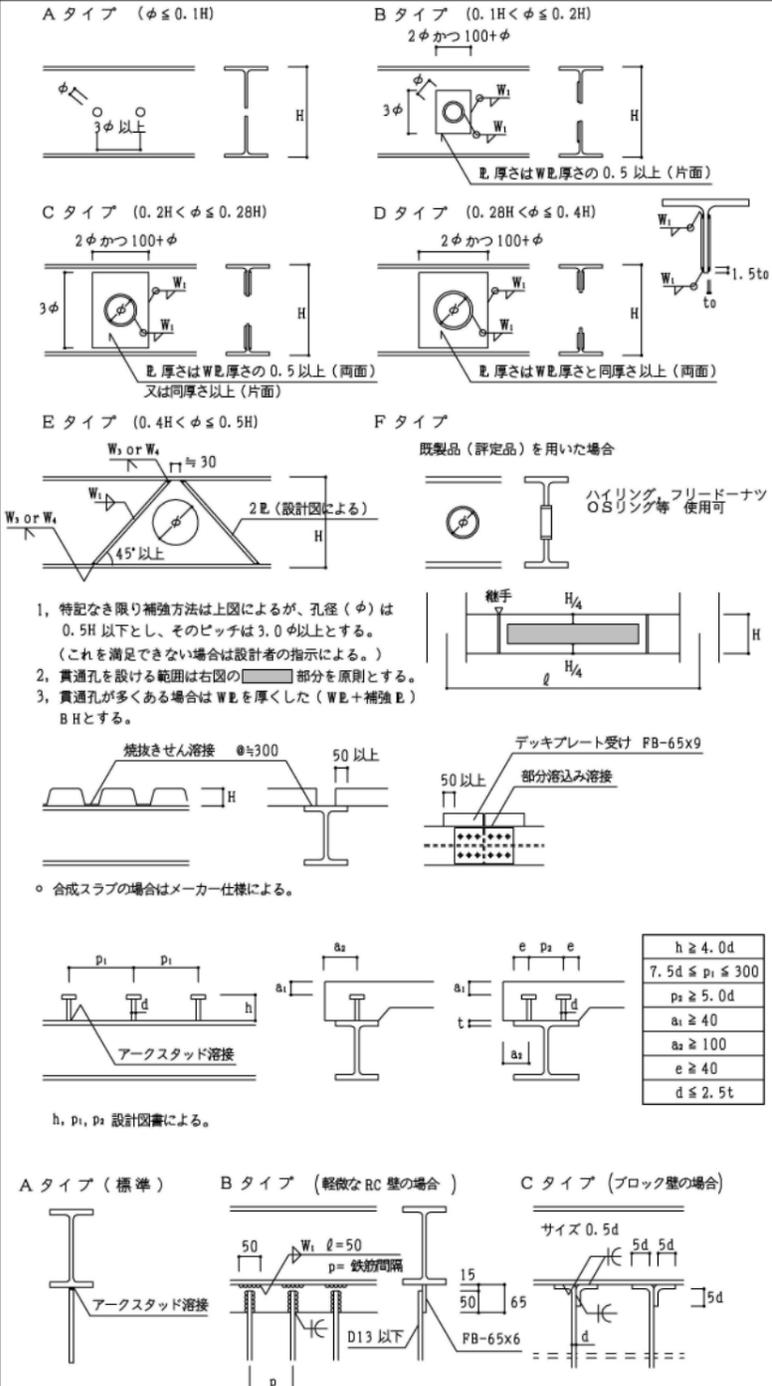
87 柱脚



88 壁面ブレース



89 その他



ボーリング柱状図

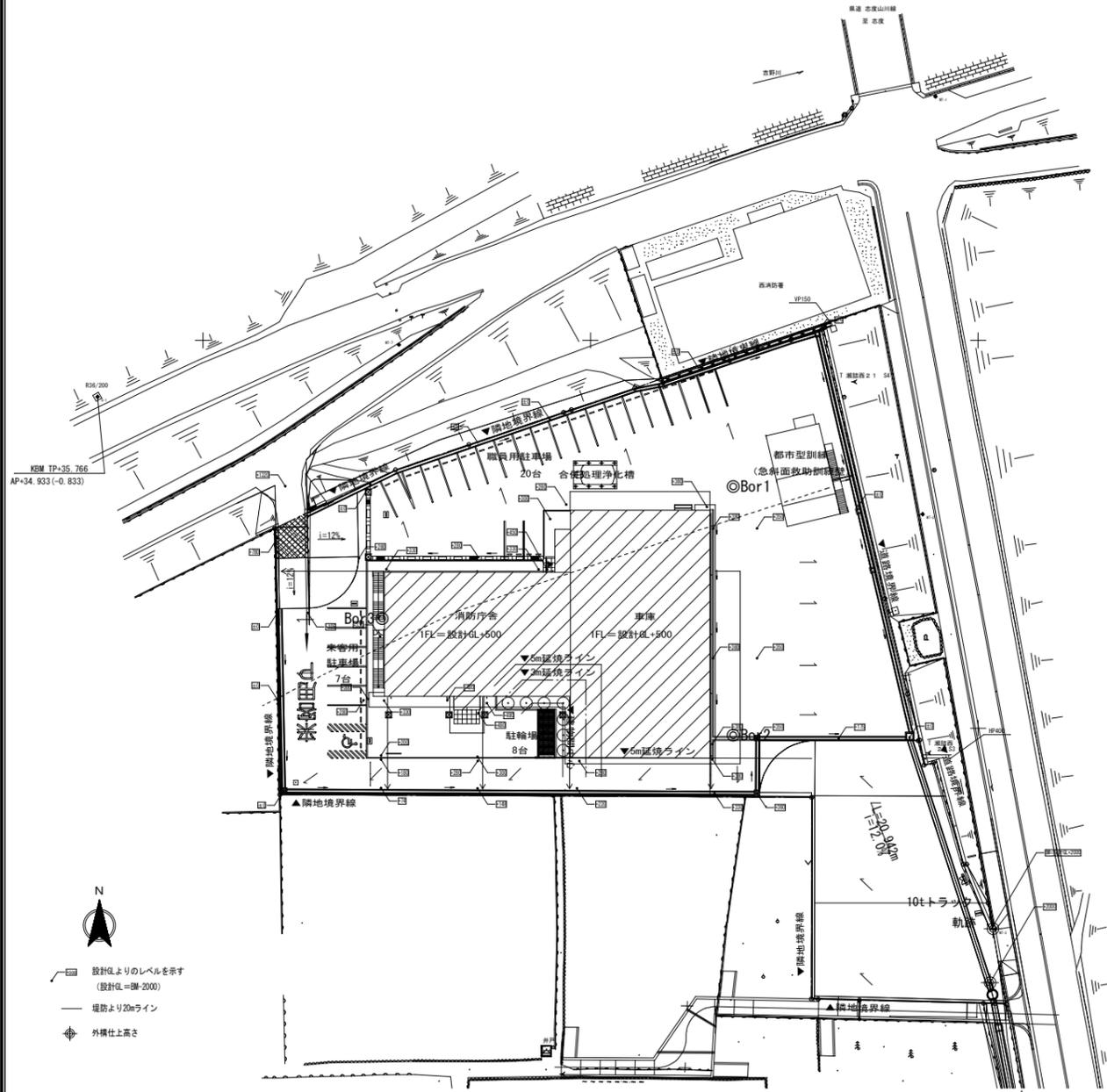
調査名 徳島中央広域連合西消防署新築工事設計業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	Bor-No.1	調査位置	吉野川市山川町三島	北緯	34° 3' 59.65282"
発注機関	徳島中央広域連合	調査期間	平成 29年 3月 8日 ~ 29年 3月 14日	東経	134° 14' 14.76315"
調査業者名	株式会社 エス・ピー・シー 電話 (0883-52-1621)	主任技師	高田 章徳	現代場	井口 忍
孔口標高	-3.29m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 西 180° 南
総掘進長	20.00m	度	0° 0°	向	北 0° 東 90° 西 180° 南
使用機種	試錐機 オイルフィード東邦D-1 エンジン クボタER80	ハンマー	落下用具	ポンプ	東邦地下工機BG-3型



設計GL=KBM-2,000

標高	層厚	土質	相対密度	相対密閉度	相対調度	相対調度	記	孔内水位	深	10cmごとの打撃回数	貫入試験	貫入量	原位置試験	深	試験名	深	試験番号	採取	室内試験	掘進
(m)	(m)	(m)	(%)	(%)	(%)	(%)	事	(m)	(m)	(回)	(cm)	(cm)	(m)	(m)	(m)	(m)	(No)	(No)	(No)	(日)
-3.89	0.60	シルト混じり砂	暗茶灰	緩い	中	中	中粒砂を主体としシルト分の混入が見られる。	1.13	18	25	16	59	1.13	1-1	◎	軟度				
-5.89	2.00	シルト混じり砂	暗茶灰	密な	中	中	粒径5~30mm程度の砂岩・結晶片岩の重なり・垂角礫を主体とし、シルト分の混入が見られる。深部0.6~0.9m間には70mm程度の玉石及び粒径50mm程度の巨礫を主体とする。	1.45	12	16	20	48	1.45	1-2	◎	軟度				
-8.19	2.30	玉石混じり砂	暗茶灰 / 黒灰	密な	中	中	粒径5~30mm程度の砂岩・結晶片岩の重なり・垂角礫を主体とし、シルト分の混入が見られる。φ70mm程度の砂岩・結晶片岩の玉石及び粒径50mm程度の巨礫が多く混入する。	3.13	12	16	17	45	3.13	1-9	◎	軟度				
-9.79	1.60	シルト混じり砂	暗茶灰	中	中	中	粒径5~30mm程度の砂岩・結晶片岩の重なり・垂角礫を主体とし、シルト分の混入が見られる。粒径10mm程度の巨礫が点在する。	3.43	12	21	18	51	3.43	1-4	◎	軟度				
-11.29	1.50	玉石混じり砂	暗茶灰 / 黒灰	密な	中	中	粒径5~30mm程度の砂岩・結晶片岩の重なり・垂角礫を主体とし、シルト分の混入が見られる。φ70~100mm程度の砂岩・結晶片岩の玉石が多く混入する。	3.13	9	9	10	28	3.13	1-5	◎	軟度				
-18.79	7.50	シルト混じり砂	暗茶灰 / 黒灰	中	中	中	粒径10~30mm程度の砂岩・結晶片岩の重なり・垂角礫を主体とし、シルト分の混入が見られる。φ70~100mm程度の砂岩・結晶片岩の玉石が点在する。	5.50	5	5	6	16	5.50	1-6	◎	軟度				
-20.29	1.50	玉石混じり砂	暗茶灰 / 黒灰	密な	中	中	粒径10~30mm程度の砂岩・結晶片岩の重なり・垂角礫を主体とし、シルト分の混入が見られる。φ70mm程度の砂岩・結晶片岩の玉石及び粒径50mm程度の巨礫が多く混入する。	6.50	27	12	14	53	6.50	1-7	◎	軟度				
-21.89	1.60	シルト混じり砂	暗茶灰 / 黒灰	中	中	中	粒径10~30mm程度の砂岩・結晶片岩の重なり・垂角礫を主体とし、シルト分の混入が見られる。粒径10mm程度の巨礫が多く混入する。	7.00	7	9	8	24	7.00	1-8	◎	軟度				
-23.29	1.40	シルト混じり砂	暗茶灰	密な	中	中	粒径10~30mm程度の砂岩・結晶片岩の重なり・垂角礫を主体とし、シルト分の混入が多く見られる。部々クワリ礫の混入が見られる。全体的に含水率低い。	8.45	12	12	9	33	8.45	1-9	◎	軟度				
								9.43	7	6	9	22	9.43	1-10	◎	軟度				
								10.15	16	8	6	30	10.15	1-11	◎	軟度				
								11.15	5	5	7	17	11.15	1-11	◎	軟度				
								12.15	6	7	12	25	12.15	1-12	◎	軟度				
								13.15	5	6	8	19	13.15	1-13	◎	軟度				
								14.15	5	7	4	16	14.15	1-14	◎	軟度				
								15.40	5	7	4	16	15.40	1-15	◎	軟度				
								16.15	11	10	11	32	16.15	1-16	◎	軟度				
								17.15	8	11	6	25	17.15	1-17	◎	軟度				
								18.15	6	5	7	18	18.15	1-18	◎	軟度				
								19.15	11	11	18	40	19.15							
								20.15	12	18	30	60	20.15							
								20.45				60	20.45							

ボーリング柱状図

ボーリング柱状図

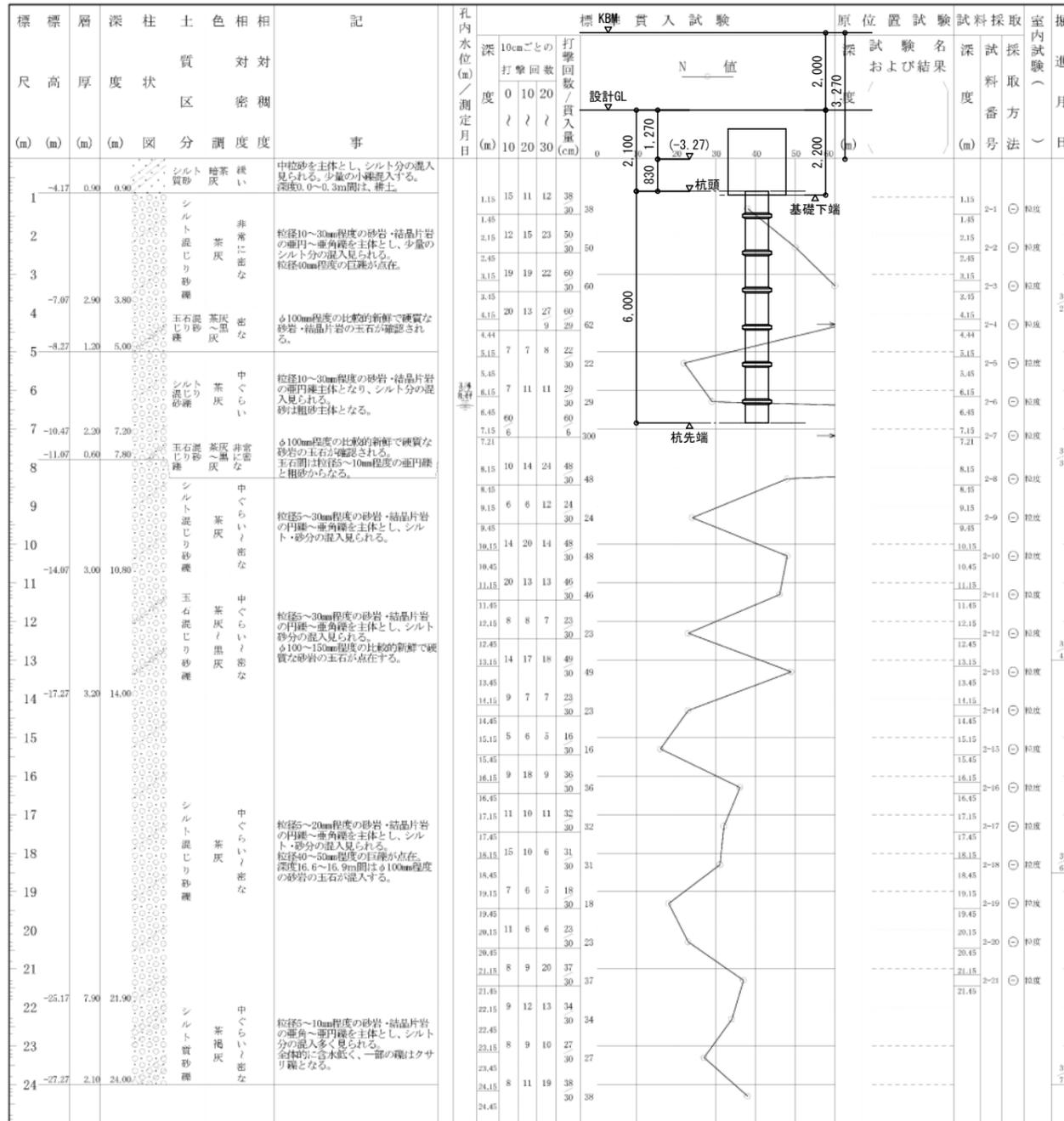
調査名 徳島中央広域連合西消防署新築工事設計業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

Table with project details for Bor-No. 2, including location (吉野川市山川町三島), dates (平成 29年 3月 2日 ~ 29年 3月 8日), and equipment (クボタ ER80, 東邦地下工機 BG-3型).



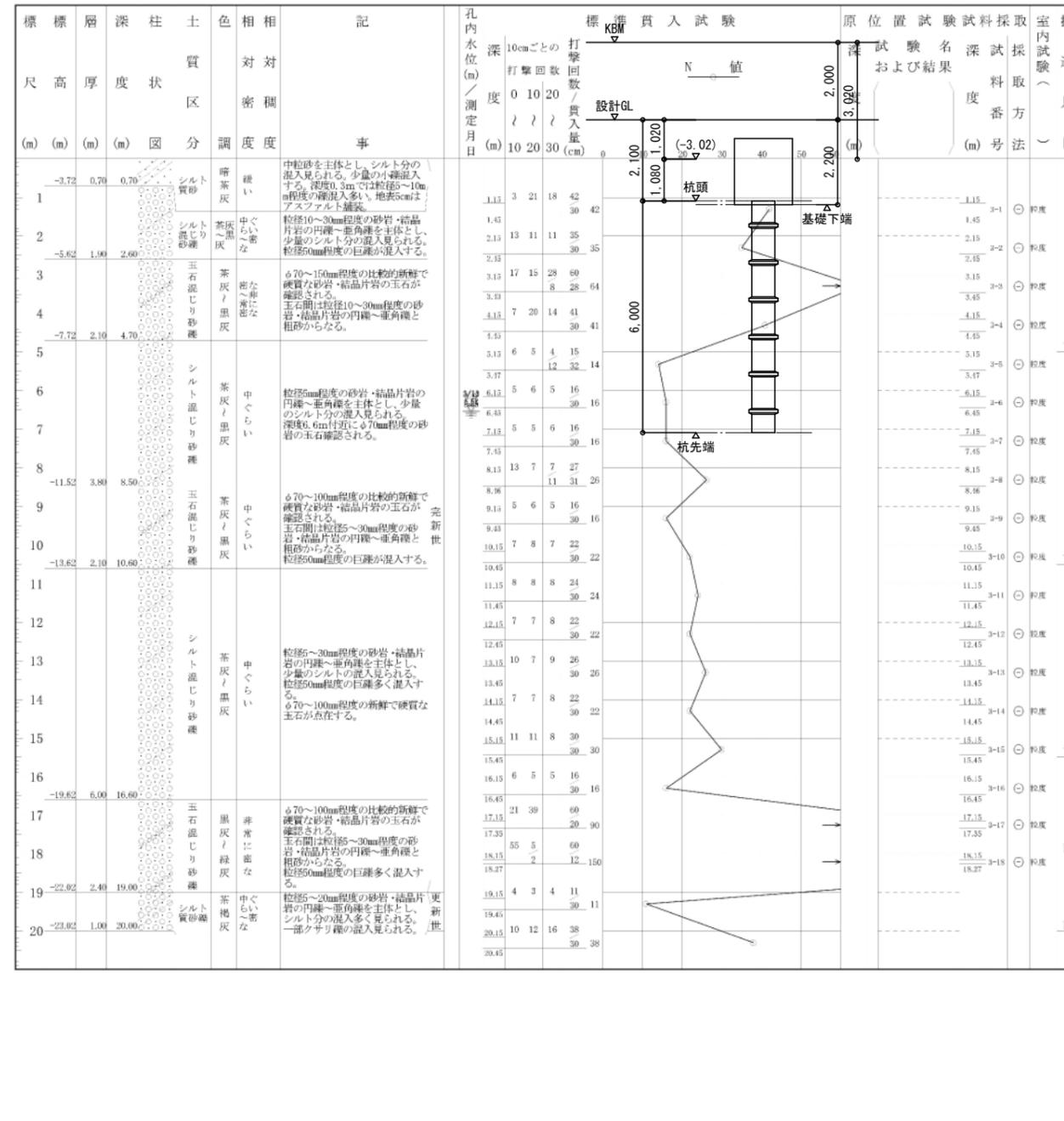
調査名 徳島中央広域連合西消防署新築工事設計業務

ボーリングNo

事業・工事名

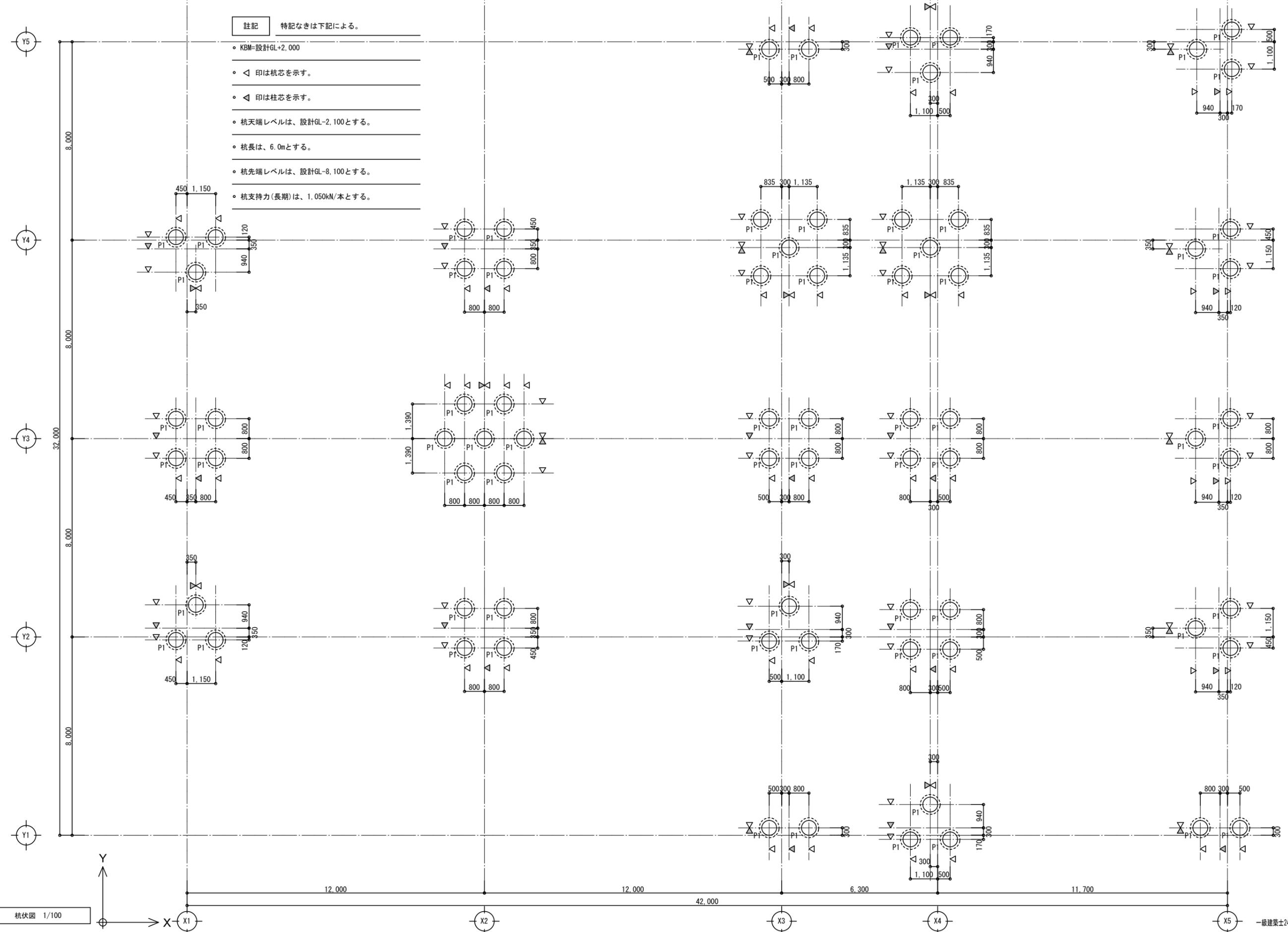
シートNo

Table with project details for Bor-No. 3, including location (吉野川市山川町三島), dates (平成 29年 3月 7日 ~ 29年 3月 14日), and equipment (クボタ ER80, 東邦地下工機 BG-3型).





- 註記 特記なきは下記による。
- KBM=設計GL+2,000
 - ◁ 印は杭芯を示す。
 - ◀ 印は柱芯を示す。
 - 杭天端レベルは、設計GL-2,100とする。
 - 杭長は、6.0mとする。
 - 杭先端レベルは、設計GL-8,100とする。
 - 杭支持力(長期)は、1,050kN/本とする。

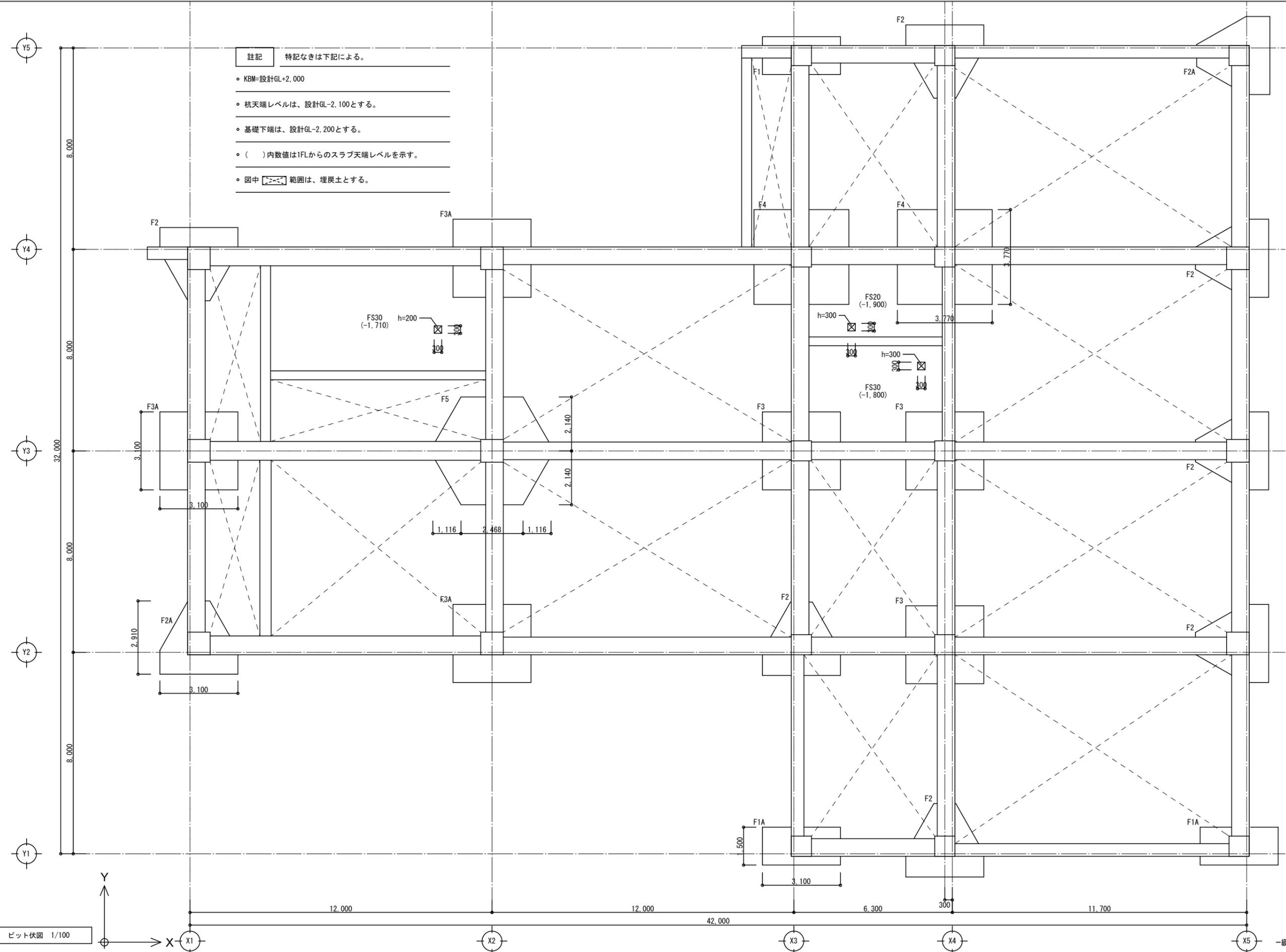


特記事項	工事名称	図面No.	工事種別	 株式会社 阿波設計事務所 四国支店 一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号	管理建築士	程野 祐介	設計No.
	図面名称	S / 8	構造		一級建築士 大臣登録 第338983号	校閲	担当
	杭伏図	縮尺	A2 (1/100)				設計年月日
							2017.9

一級建築士245854(構造設計)一級建築士3942
金城 伊佐夫



- 註記 特記なきは下記による。
- KBM=設計GL+2,000
 - 杭天端レベルは、設計GL-2,100とする。
 - 基礎下端は、設計GL-2,200とする。
 - ()内数値は1FLからのスラブ天端レベルを示す。
 - 図中  範囲は、埋戻土とする。



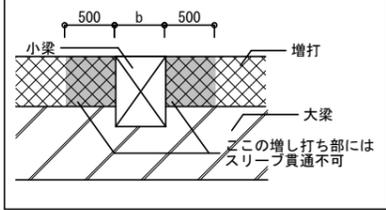
ビット伏図 1/100

特記事項	工事名称	図面No.	工事種別	 株式会社 阿波設計事務所 四国支店 一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号	管理建築士	程野 祐介	設計No.
	図面名称	S / 9	構造		一級建築士	大臣登録 第338983号	—
	基礎・ビット伏図	縮尺	A2 (1/100)	校閲	担当	製図	設計年月日
							2017.9

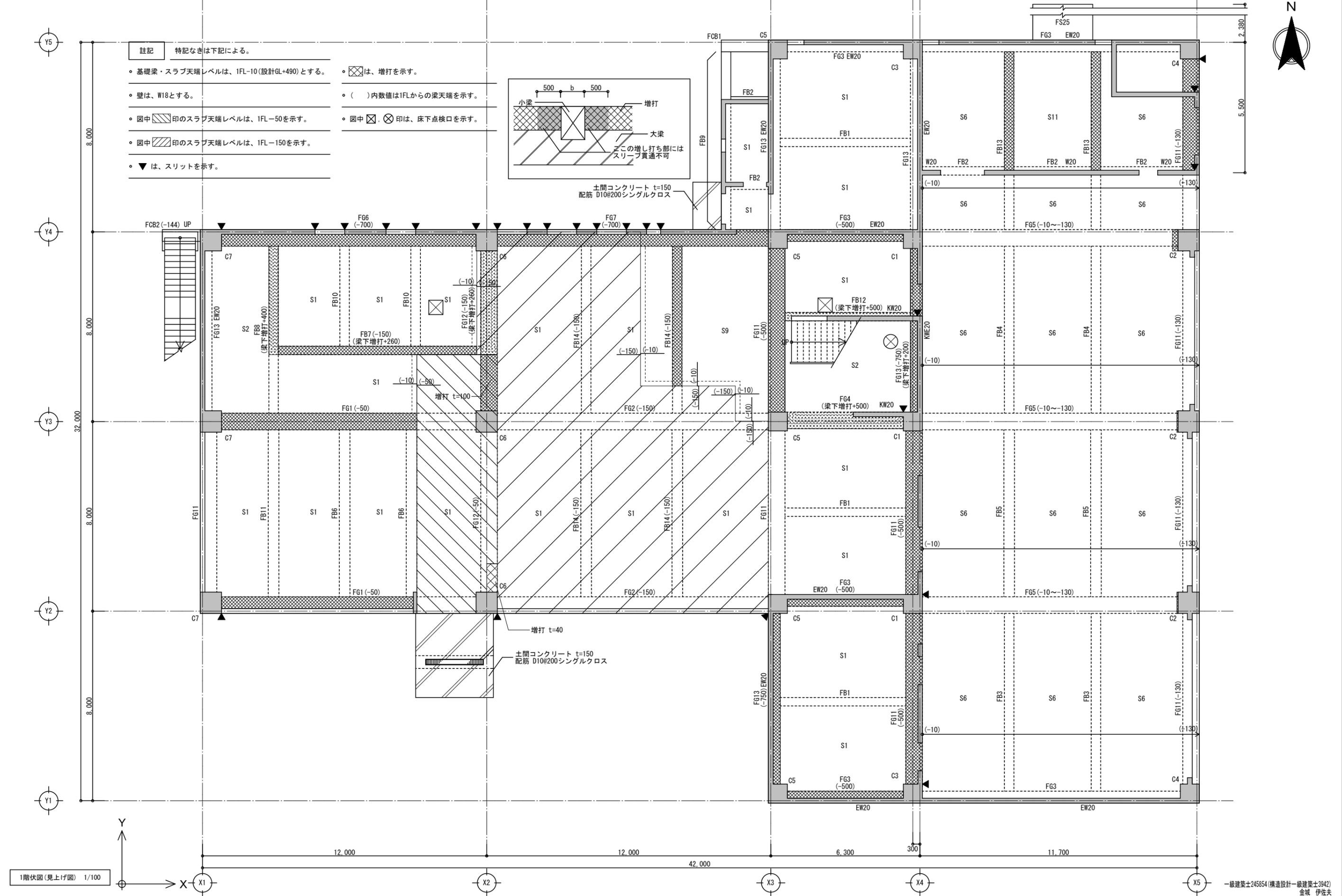
一級建築士245854(構造設計一級建築士3942) 金城 伊佐夫



- 註記 特記なきは下記による。
- 基礎梁・スラブ天端レベルは、1FL-10(設計GL+490)とする。
 - 壁は、W18とする。
 - 図中 印のスラブ天端レベルは、1FL-50を示す。
 - 図中 印のスラブ天端レベルは、1FL-150を示す。
 - ▼ は、スリットを示す。
 - は、増打を示す。
 - ()内数値は1FLからの梁天端を示す。
 - 図中 印は、床下点検口を示す。



土間コンクリート t=150
配筋 D10@200シングルクロス

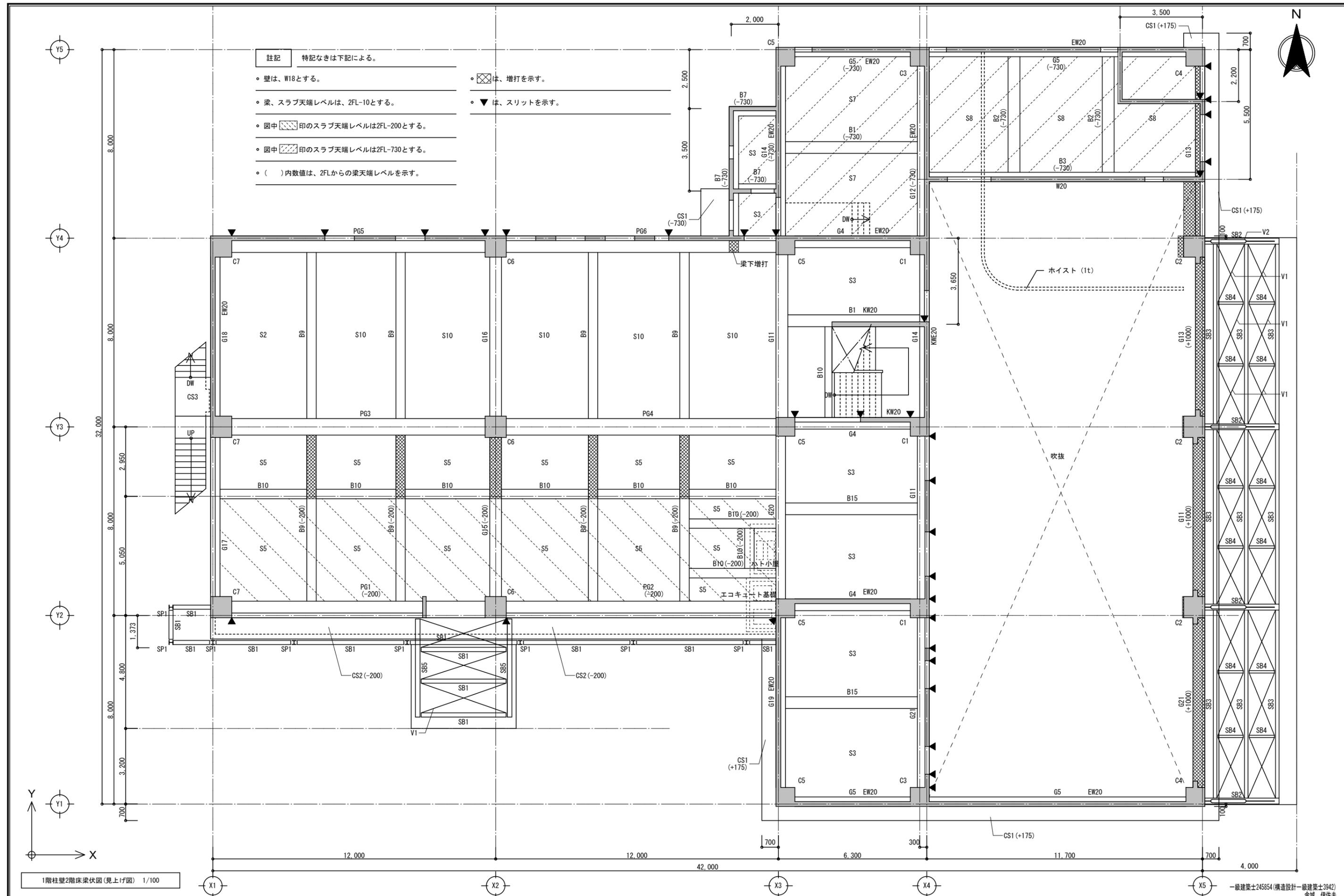


1階伏図(見上げ図) 1/100

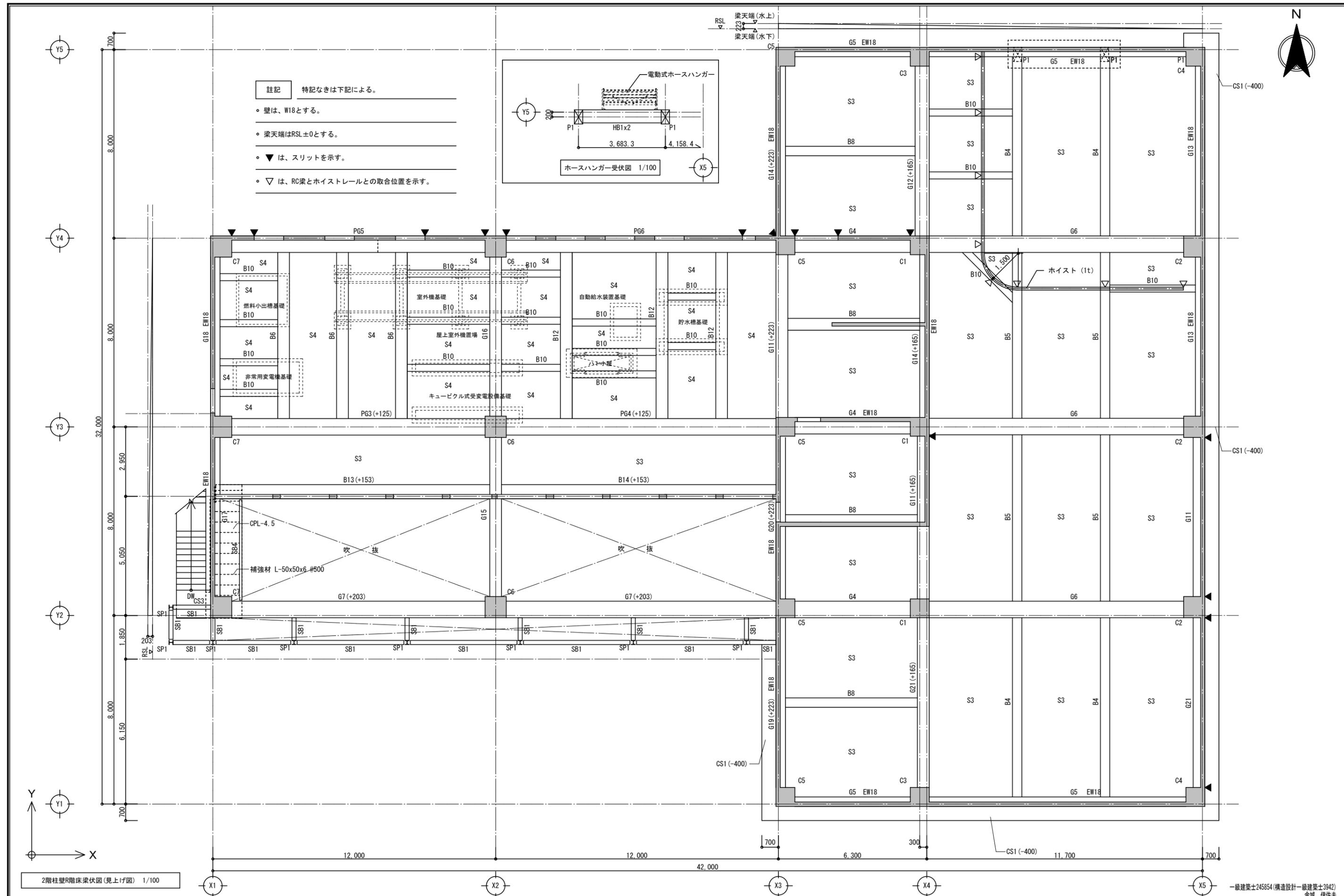
一級建築士245854(構造設計一級建築士3942)
金城 伊佐夫

特記事項	工事名称	徳島中央広域連合西消防署新築工事	図面No.	S / 10	工事種別	構造	株式会社 阿波設計事務所 四国支店 一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号	管理建築士	程野 祐介	設計No.	-
	図面名称	1階伏図(見上げ図)	縮尺	A2(1/100)	校閱	大臣登録 第338983号		校閱	担当	製図	設計年月日

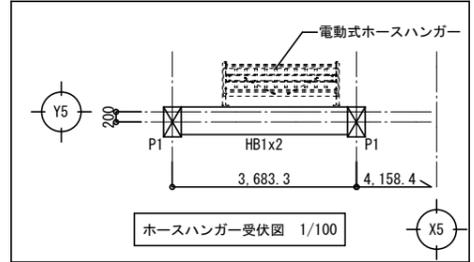
- 註記 特記なきは下記による。
- 壁は、W18とする。
 - 梁、スラブ天端レベルは、2FL-10とする。
 - 図中 [斜線] 印のスラブ天端レベルは2FL-200とする。
 - 図中 [点線] 印のスラブ天端レベルは2FL-730とする。
 - ()内数値は、2FLからの梁天端レベルを示す。
 - [格子] は、増打を示す。
 - ▼ は、スリットを示す。



特記事項	工事名称 徳島中央広域連合西消防署新築工事	図面No. S / 11	工事種別 構造	管理建築士 程野 祐介	設計No. —
	図面名称 1階柱壁2階床梁伏図(見上げ図)	縮尺 A2 (1/100)	株式会社 阿波設計事務所 四国支店	一級建築士 大臣登録 第338983号	設計年月日 2017.9
			一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号	校閲 担当 製図	



- 註記 特記なきは下記による。
- 壁は、W18とする。
 - 梁天端はRSL±0とする。
 - ▼ は、スリットを示す。
 - ▽ は、RC梁とホイストレールとの取合位置を示す。

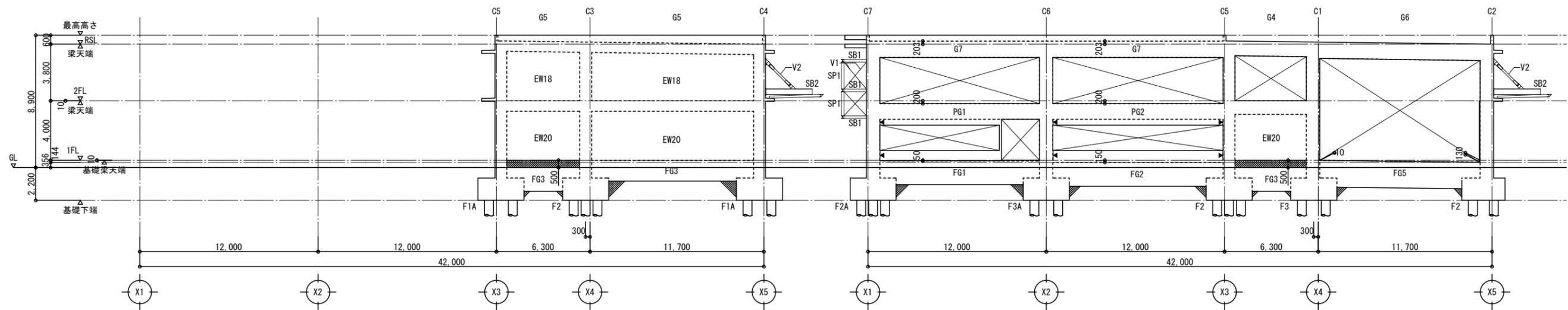


2階柱壁R階床梁伏図(見上げ図) 1/100

特記事項	工事名称	図面No.	工事種別	管理建築士	程野 祐介	設計No.
	徳島中央広域連合西消防署新築工事	S / 12	構造	一級建築士	大臣登録 第338983号	—
	図面名称	縮尺		校閲	担当	製図
	2階柱壁R階床梁伏図(見上げ図)	A2 (1/100)				設計年月日
						2017.9

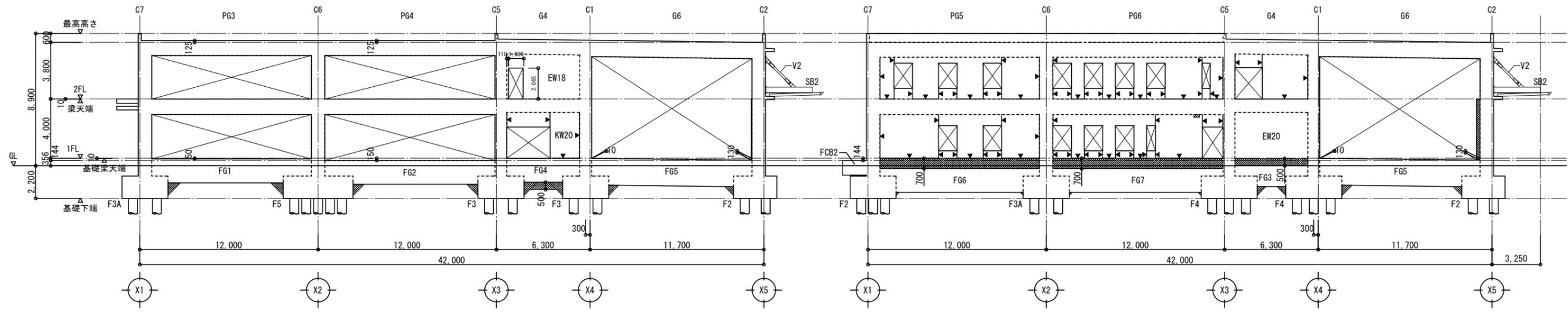


一級建築士245854(構造設計一級建築士3942)
金城 伊佐夫



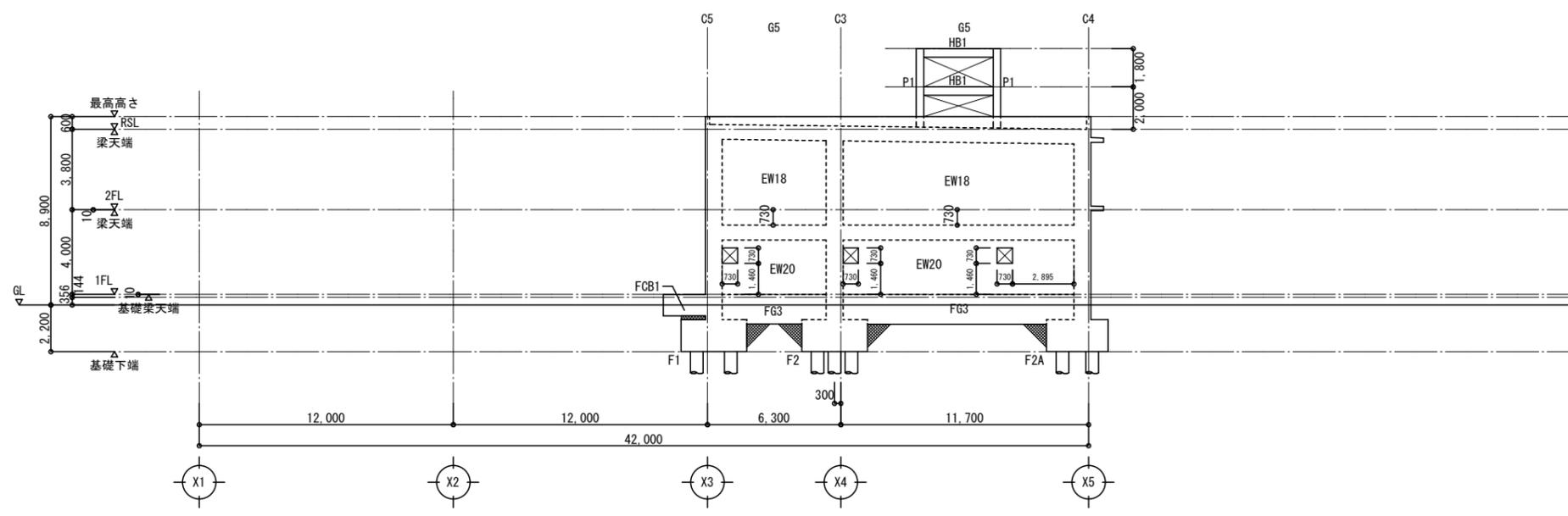
Y1通り軸組図 1/200

Y2通り軸組図 1/200



Y3通り軸組図 1/200

Y4通り軸組図 1/200

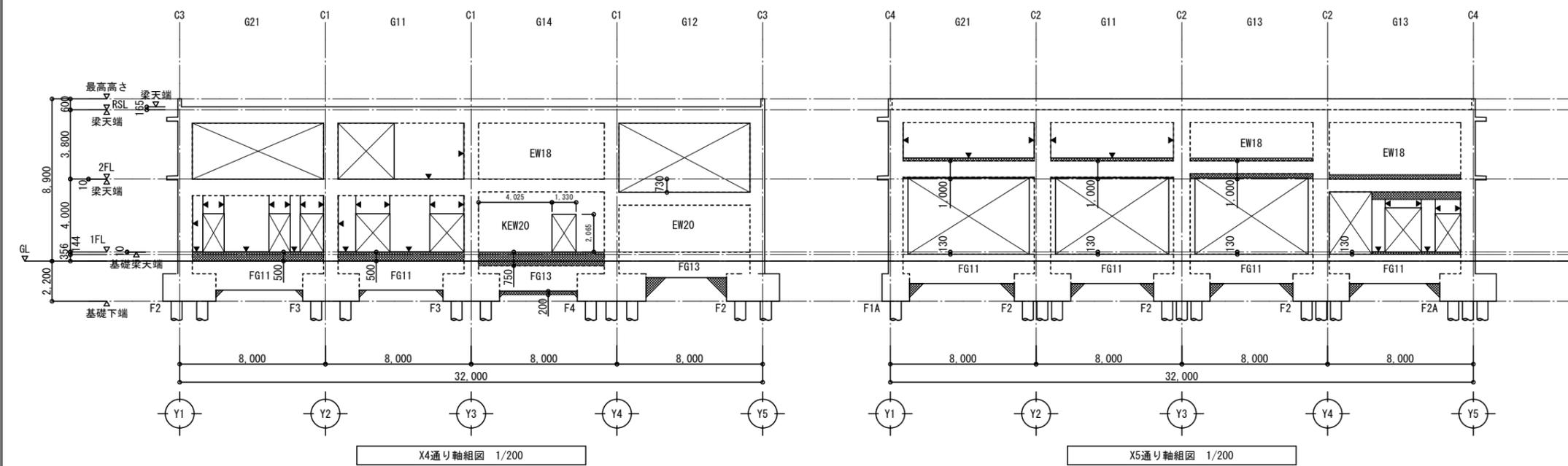
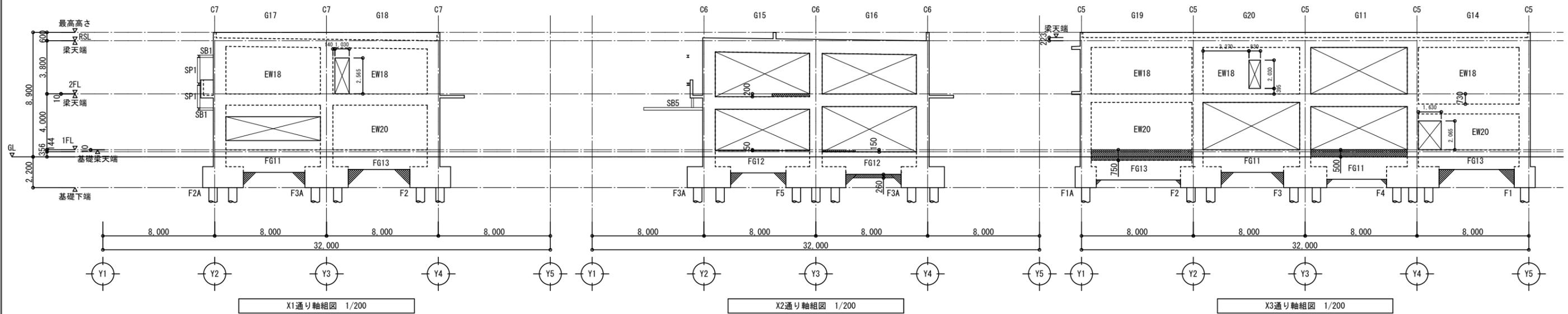


Y5通り軸組図 1/200

- 註記 特記なきは下記による。
- 壁は、W18とする。
 - ⊗ は、増打を示す。
 - ▼ は、スリットを示す。
 - コンクリート強度は、Fe27とする。

特記事項	工事名称	徳島中央広域連合西消防署新築工事	図面No.	S / 13	工事種別	構造	株式会社 阿波設計事務所 四国支店 一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号	管理建築士	程野 祐介	設計No.	—
	図面名称	軸組図(1)	縮尺	A2 (1/200)	校閱	大田 登録 第338983号		校閱	担当	製図	設計年月日

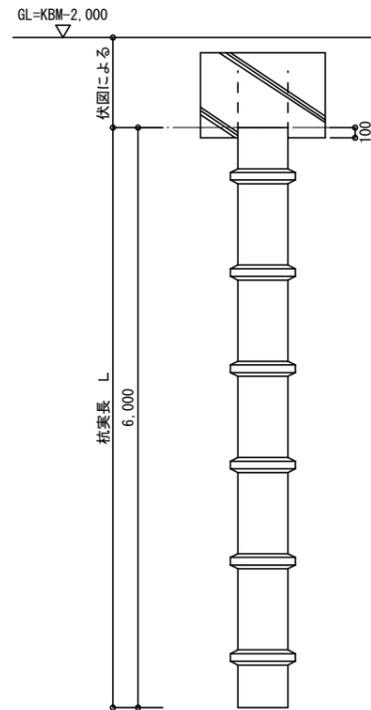
一級建築士245854(構造設計一級建築士3942) 金城 伊佐夫



- 註記 特記なきは下記による。
- 壁は、W18とする。
 - は、増打を示す。
 - ▼ は、スリットを示す。
 - コンクリート強度は、Fe27とする。

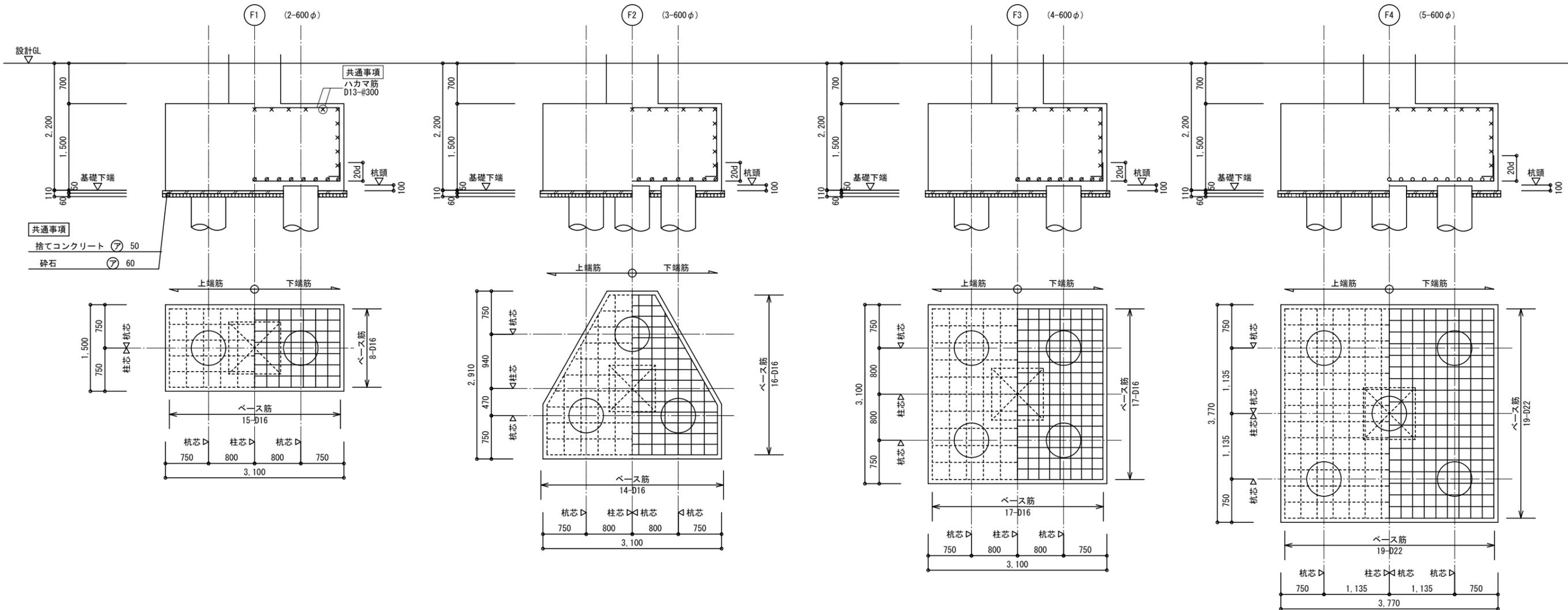
特記事項	工事名称	図面No.	工事種別	一級建築士245854(構造設計一級建築士3942) 金城 伊佐夫 管理建築士 程野 祐介 一級建築士 大臣登録 第338983号 校閲 担当 製図	設計No. ー 設計年月日 2017.9
	徳島中央広域連合西消防署新築工事 図面名称 軸組図(2)	S / 14	構造		

杭仕様



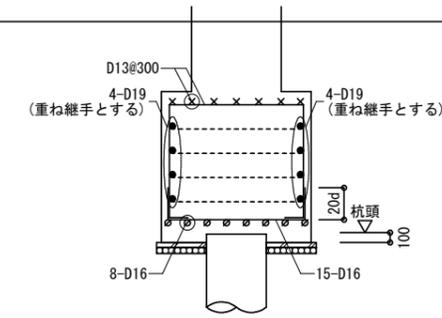
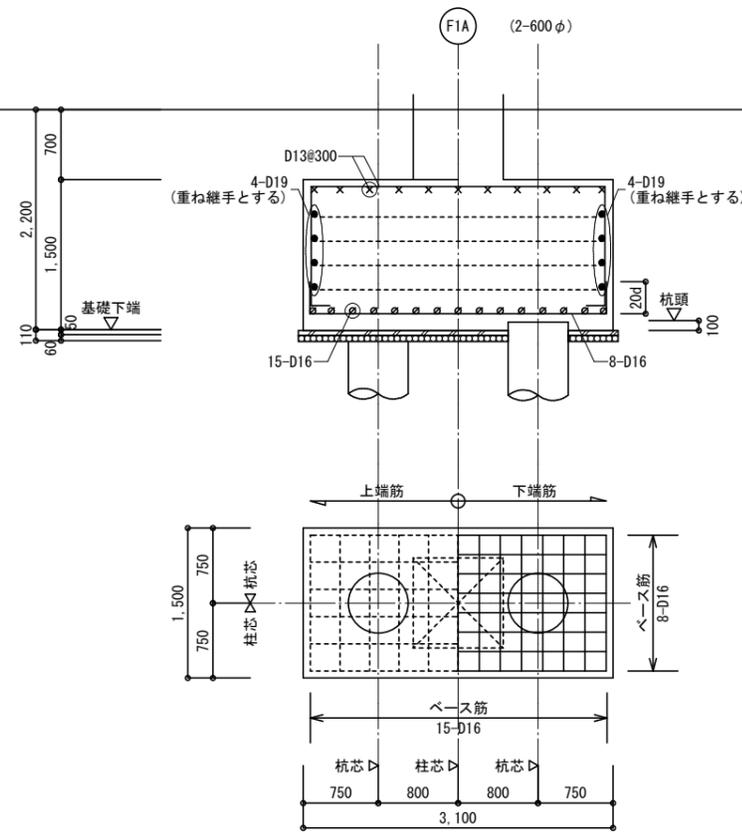
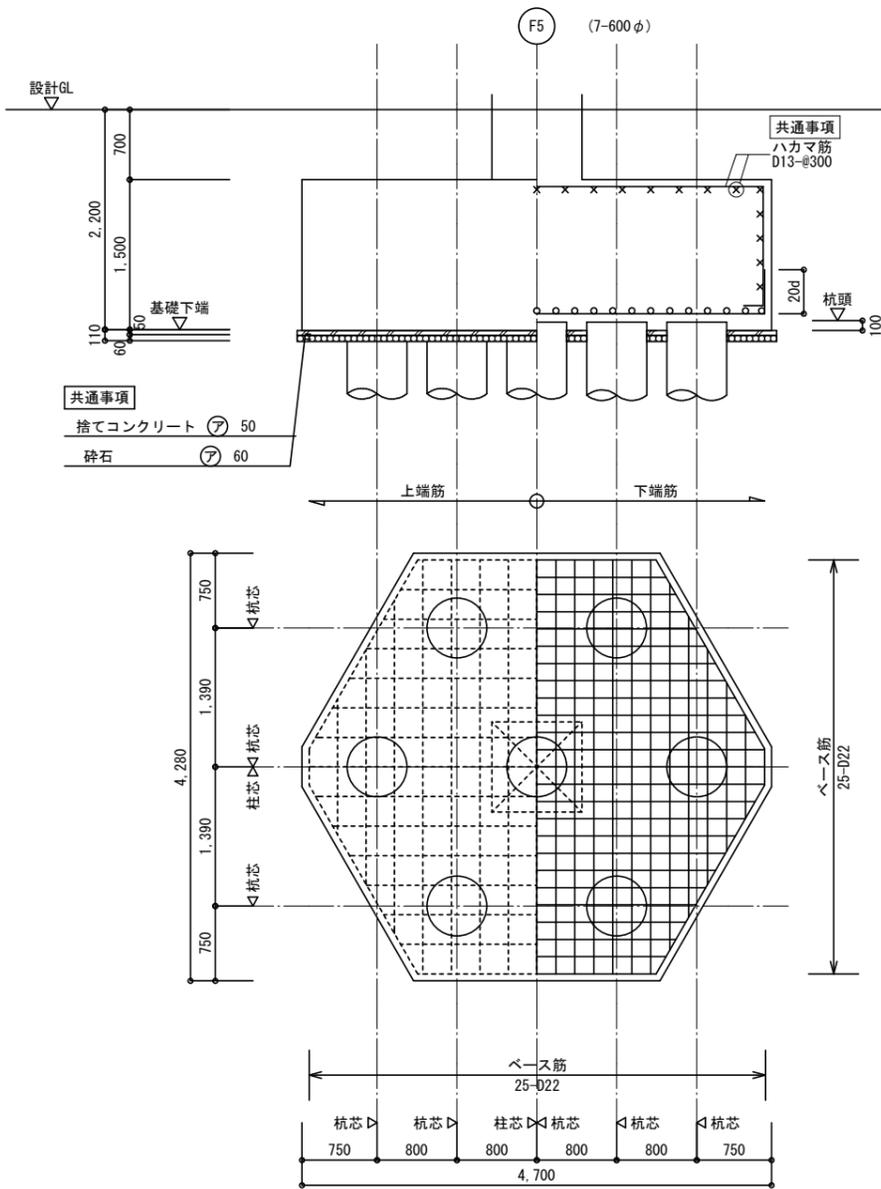
1 杭種	PHC杭
2 杭打工法	Hyper - MEGA 工法 (認定番号:TACP-0357, TACP-0358)
3 杭径	600φ
4 杭耐力(長期)	P1 : 600φ ... 1,050kN/本
5 杭長(杭実長)	P1 600φ HF-ONA杭105 (φ6080・60)6.0m B1種] TOTAL 6.0m 74セット 合計 74セット
6 支持層	設計GL-6.22m以深のシルト混じり砂礫とする。
7 杭頭補強筋	P1 : 8-D25 L1=40d以上 SKW490

・コンクリート強度は、Fc27とする。



特記事項	工事名称	徳島中央広域連合西消防署新築工事	図面No.	S / 16	工事種別	構造	株式会社 阿波設計事務所 四国支店 一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号	管理建築士	程野 祐介	設計No.	—
	図面名称	基礎リスト(1)	縮尺	A2(1/50)	校閲	大臣登録 第338983号		校閲	担当	製図	設計年月日

・コンクリート強度は、Fc27とする。



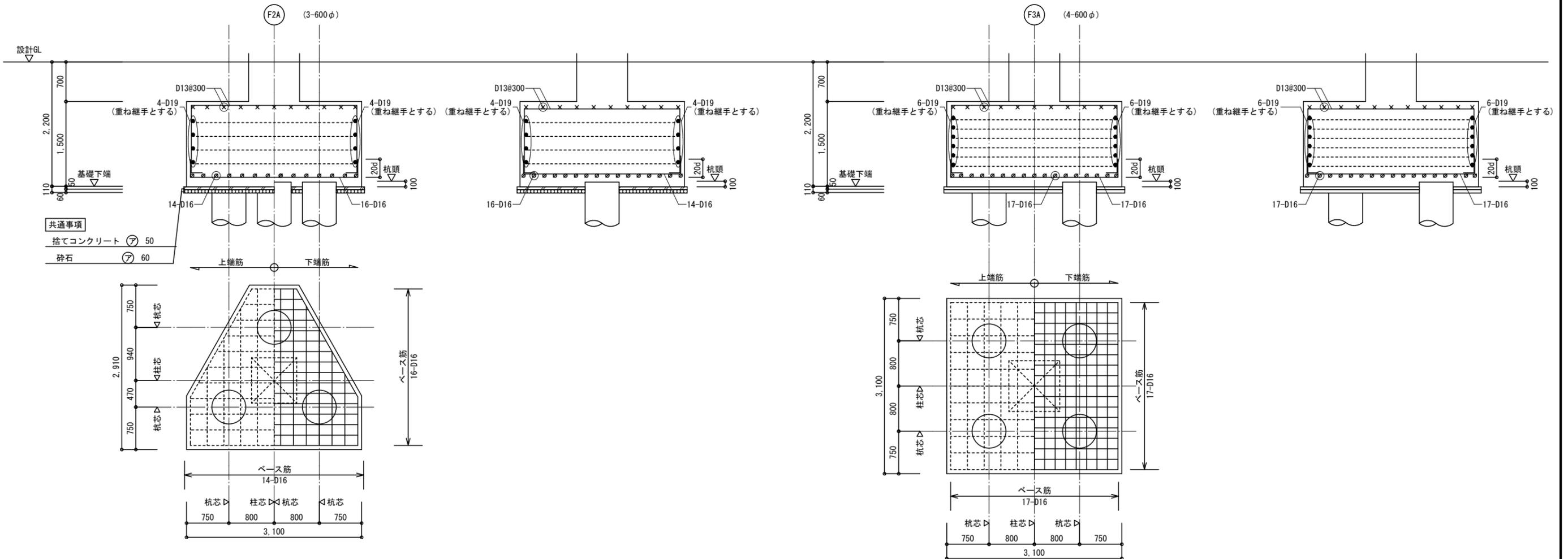
特記事項

工事名称
徳島中央広域連合西消防署新築工事
図面名称
基礎リスト(2)

図面No.
S / 17
縮尺
A2(1/50)

株式会社 阿波設計事務所 四国支店
一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号

管理建築士 程野 祐介
一級建築士 大臣登録 第338983号
校閲
担当 製図
設計No.
—
設計年月日
2017.9



特記事項	工事名称	徳島中央広域連合西消防署新築工事	図面No.	S / 18	工事種別	構造	株式会社 阿波設計事務所 四国支店 一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号	管理建築士	程野 祐介	設計No.	—
	図面名称	基礎リスト(3)	縮尺	A2(1/50)	校閱			一級建築士	大臣登録 第338983号	校閱	

基礎梁リスト S=1:50

符号	FG1			FG2			FG3	FG4	FG5			FG6		
	X1端	中央	X2端	X2端	中央	X3端	全断面	全断面	X4端	中央	X5端	X1端	中央	X2端
断面														
B x D	750x1600			700x1600			500x1400	700x1600	700x1800			700x1600		
上端筋	8-D29	11-D29	11-D29	11-D29	11-D29	8-D29	5-D29	10-D29	16-D29	16-D29	10-D29	6-D29	6-D29	9-D29
下端筋	6-D29	8-D29	8-D29	8-D29	8-D29	8-D29	4-D29	5-D29	10-D29	10-D29	10-D29	6-D29	8-D29	8-D29
スターラップ	□-D13 @100			□-D13 @100			□-D13 @200	□-D13 @100	□-D13 @100			□-D13 @100		
腹筋	8-D13			8-D13			8-D13	8-D13	8-D13			8-D13		
余長														
符号	FG7			FG11			FG12	FG13						
位置	X2端	中央	X3端	全断面			全断面	全断面						
断面														
B x D	700x1600			700x1600			700x1600	500x1400						
上端筋	9-D29	6-D29	9-D29	8-D29			8-D29	5-D29						
下端筋	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29			7-D29	4-D29						
スターラップ	□-D13 @100			□-D13 @100			□-D13 @100	□-D13 @200						
腹筋	8-D13			8-D13			8-D13	8-D13						
余長														

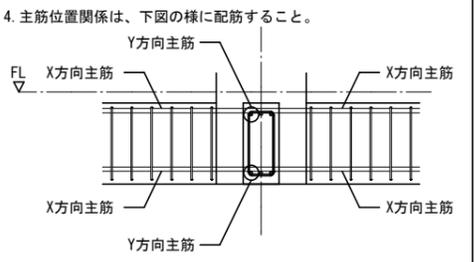
共通事項

特記なき限り下記による。

1. B x Dの表示

2. 梁の鉄筋は以下による。
腹筋 段数は図示による
幅止筋 D10@600以内

3. 鉄筋の材質
SD295A 規格品 (D10~)
SD345 規格品 (D19~)
SD390 規格品 (D29~)



小梁リスト S=1:50

巾止め筋はD10@600以内とする。

符号	FB1		FB2	FB3			FB4			FB5			FB6							
	端部	中央	全断面	Y1端	中央	Y2端	Y3端	中央	Y4端	Y2端	中央	Y3端	端部	中央						
断面																				
BxD	500x700		300x500	500x900			500x1200			500x900			500x900							
上端筋	4-D25	4-D25	3-D22	4-D25	4-D25	7-D25	4-D25	4-D25	7-D25	7-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25						
下端筋	4-D25	5-D25	3-D22	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25						
スターラップ	□-D13-@200		□-D10-@200	□-D13-@200			□-D13-@200			□-D13-@200			□-D13-@200							
腹筋	2-D10		-	2-D10			4-D10			2-D10			2-D10							
符号	FB7		FB8		FB9		FB10		FB11			FB12		FB13		FB14		FCB1	FCB2	
位置	端部	中央	Y3端	中央	Y4端	端部	中央	全断面	Y2端	中央	Y3端	全断面	Y4端	中央	Y5端	Y2, Y4端	中央	Y3端	全断面	全断面
断面																				
BxD	600 x 1600		500 x 1600		400 x 1200		400 x 700		500 x 1600			400 x 1600		500x1200		500x900		500 x 1400		400 x 1200
上端筋	5-D25	5-D25	7-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D22	5-D25	4-D25	7-D25	4-D25	7-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	5-D29	4-D25
下端筋	5-D25	8-D25	5-D25	7-D25	4-D25	3-D25	4-D25	3-D22	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	6-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D29	3-D25
スターラップ	□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@200			□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@200
腹筋	10-D13		10-D13		6-D13		2-D10		10-D13			10-D13		4-D10		2-D10		8-D13		6-D13

一級建築士245854(構造設計一級建築士3942) 金城 伊佐夫

柱リスト S=1:50

階	符号	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	共通事項
2	断面								特記なき限り下記による。 1. B x Dの表示 2. 鉄筋の材質 SD295A 規格品 (D10~) SD345 規格品 (D19~) SD390 規格品 (D29~) 4. フープは以下による。 フープは135°フック型とする。 中子筋は135°フック型とする。 仕口部フープは135°フック型とする。 仕口部フープは、□-D13@100とする。 ダイヤフープは、+ D10@600とする。 柱に取り付け梁に段差がある場合、仕口部の範囲は柱に取り付けすべての梁を考慮して適用する。
	B x D	800x800	900x900	800x800	800x800	800x800	900x900	900x900	
	主筋	12-D25	20-D25	12-D25	12-D25	12-D25	16-D25	22-D25	
	フープ	□-D13 @100							
	仕口フープ	共通事項による	□-D13@90	共通事項による	共通事項による	共通事項による	□-D13@90	□-D13@90	
1	断面								特記なき限り下記による。 1. B x Dの表示 2. 鉄筋の材質 SD295A 規格品 (D10~) SD345 規格品 (D19~) SD390 規格品 (D29~) 4. フープは以下による。 フープは135°フック型とする。 中子筋は135°フック型とする。 仕口部フープは135°フック型とする。 仕口部フープは、□-D13@100とする。 ダイヤフープは、+ D10@600とする。 柱に取り付け梁に段差がある場合、仕口部の範囲は柱に取り付けすべての梁を考慮して適用する。
	B x D	800x800	900x900	800x800	800x800	800x800	900x900	900x900	
	主筋	12-D25	20-D25	12-D25	12-D25	12-D25	16-D25	22-D25	
	フープ	□-D13 @100							
	仕口フープ	共通事項による	□-D13@90	共通事項による	共通事項による	共通事項による	□-D13@90	□-D13@90	

大梁リスト 1 S=1:50

階	符号	PG1~PG6	G4	G5	G6			G7	共通事項
3	位置		全断面	全断面	Y4端	中央	Y5端	全断面	特記なき限り下記による。 1. B x Dの表示 2. 梁の鉄筋は以下による。 腹筋 2-D10(段数は図示による) 幅止筋 D10@600以内 3. 鉄筋の材質 SD295A 規格品 (D10~) SD345 規格品 (D19~) SD390 規格品 (D29~) 4. 主筋位置関係は、下図の様に配筋すること。
	断面	PC図面による							
	B x D		700x1000	400x700	700x1100			700x1100	
	上端筋		6-D29	3-D22	9-D29	6-D29	6-D29	6-D29	
	下端筋		6-D29	3-D22	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	
	スターラップ		□-D13 @150	□-D13 @200	□-D13 @150			□-D13 @150	
	腹筋		4-D10	2-D10	4-D10			4-D10	
余長									
2	位置		全断面	全断面					特記なき限り下記による。 1. B x Dの表示 2. 梁の鉄筋は以下による。 腹筋 2-D10(段数は図示による) 幅止筋 D10@600以内 3. 鉄筋の材質 SD295A 規格品 (D10~) SD345 規格品 (D19~) SD390 規格品 (D29~) 4. 主筋位置関係は、下図の様に配筋すること。
	断面	PC図面による							
	B x D		500x900	400x700					
	上端筋		4-D29	3-D22					
	下端筋		4-D29	3-D22					
	スターラップ		□-D13 @200	□-D13 @200					
	腹筋		4-D10	2-D10					
余長									

大梁リスト 2 S=1:50

階	符号	G11	G12	G13	G14	G15	G16	G17	G18	G19	G20	G21
3	位置	全断面										
	断面											
	B x D	500x700	500x700	400x700	400x700	500x1000	500x1000	400x600	400x600	400x700	400x700	500x700
	上端筋	5-D29	5-D29	3-D22	3-D22	6-D29	6-D29	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D29
	下端筋	5-D29	5-D29	3-D22	3-D22	5-D29	5-D29	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D29
	スターラップ	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	▣-D13 @100	▣-D13 @100	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	▣-D13 @100
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
余長												
2	位置	全断面										
	断面											
	B x D	500x900	400x700	400x700	400x700	500x900	500x900	400x800	400x800	400x600	400x600	500x900
	上端筋	6-D29	3-D22	3-D22	3-D22	6-D29	6-D29	4-D22	4-D22	3-D22	3-D22	6-D29
	下端筋	6-D29	3-D22	3-D22	3-D22	6-D29	6-D29	4-D22	4-D22	3-D22	3-D22	6-D29
	スターラップ	□-D13 @200	□-D13 @100									
	腹筋	4-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10
余長												

壁リスト 1:50

符号	W18	EW18	W20	EW20	KEW20	KW20	共通事項
壁厚	180	180	200	200	200	200	1. 開口補強筋
断面 (外断面)							
縦筋	D10@200 ダブル	D10@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	
横筋	D10@200 ダブル	D10@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	
開口補強	縦筋	2-D13	6-D16	4-D16	4-D19	4-D19	
	横筋	2-D13	4-D16	2-D13	6-D19	2-D16	
	斜筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	
巾止筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	
備考							

小梁リスト S=1:50 巾止め筋はD10@1000以内とする。

符号	B1		B2		B3	B4			B5		
	端部	中央	端部	中央	全断面	Y1, Y5端	中央	Y2, Y4端	Y2, Y4端	中央	Y3端
断面											
BxD	400x700		400x700		400x700	400x700			400x700		
上端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22	4-D22	5-D22	5-D22	4-D22	4-D22
下端筋	4-D22	6-D22	4-D22	5-D22	4-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22
スタップ	□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@200	□-D13-@200			□-D13-@200		
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10	2-D10			2-D10		
符号	B6		B7		B8	B9			B10		
位置	端部	中央	全断面		端部	中央	Y2, Y4端	中央	Y3端	全断面	
断面											
BxD	500x800		300x500		400x600		400x800			300x500	
上端筋	4-D25	4-D25	3-D19	3-D19	4-D22	3-D22	4-D25	4-D25	6-D25	3-D19	
下端筋	4-D25	7-D25	3-D19	3-D19	3-D22	4-D22	4-D25	4-D25	4-D25	3-D19	
スタップ	□-D13-@200		□-D10-@200		□-D13-@200		□-D13-@100			□-D10-@200	
腹筋	2-D10		-		2-D10		2-D10			-	
符号	B12		B13		B14			B15			
位置	端部	中央	X1端	中央	X2端	X2端	中央	X3端	端部	中央	
断面											
BxD	600x800		600x1000		600x1000			500x600			
上端筋	6-D25	6-D25	5-D25	5-D25	8-D25	8-D25	5-D25	5-D25	4-D22	4-D22	
下端筋	6-D25	8-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D22	5-D22	
スタップ	□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@200			□-D13-@200			
腹筋	2-D10		4-D10		4-D10			2-D10			

鉄骨リスト

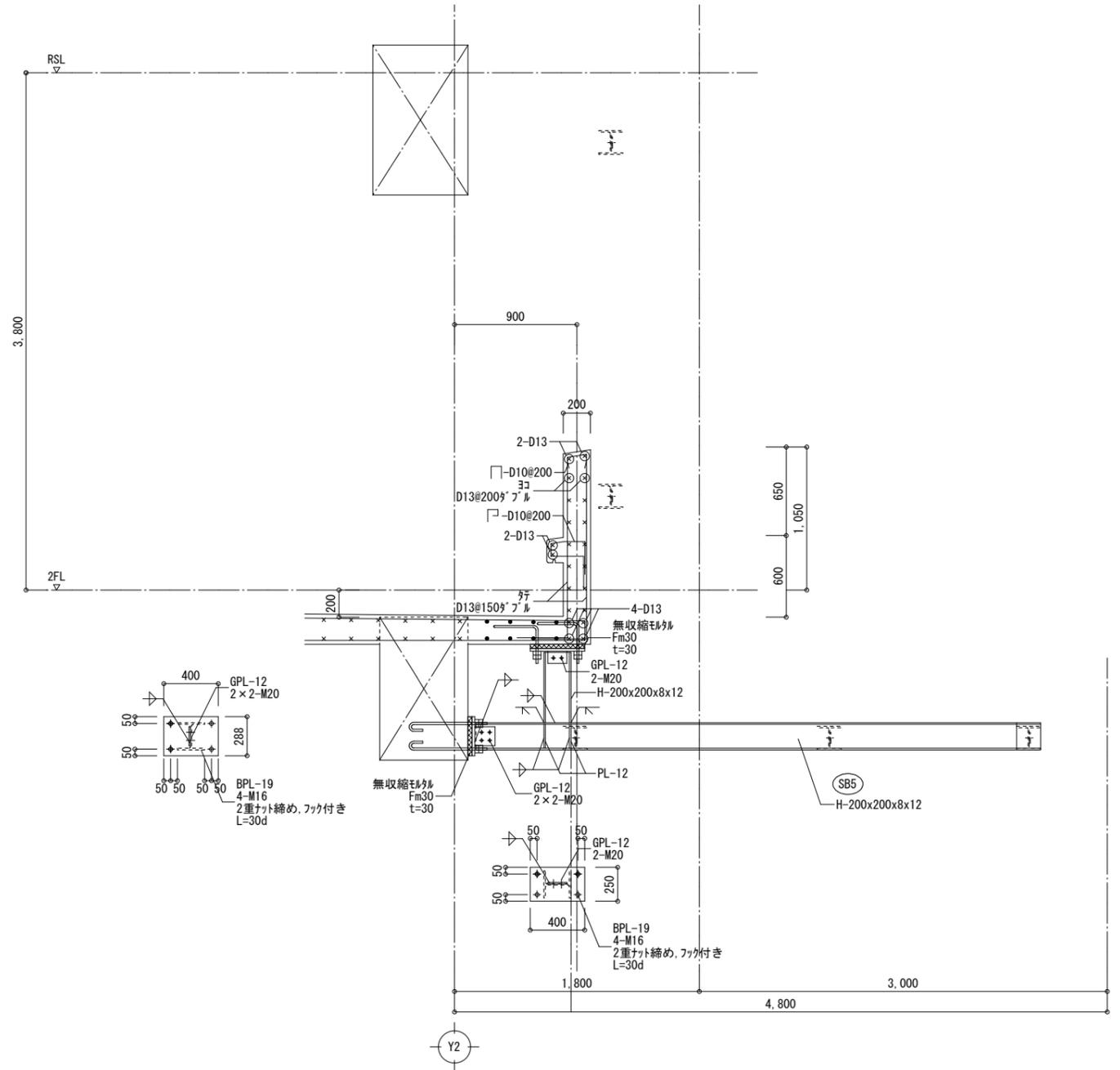
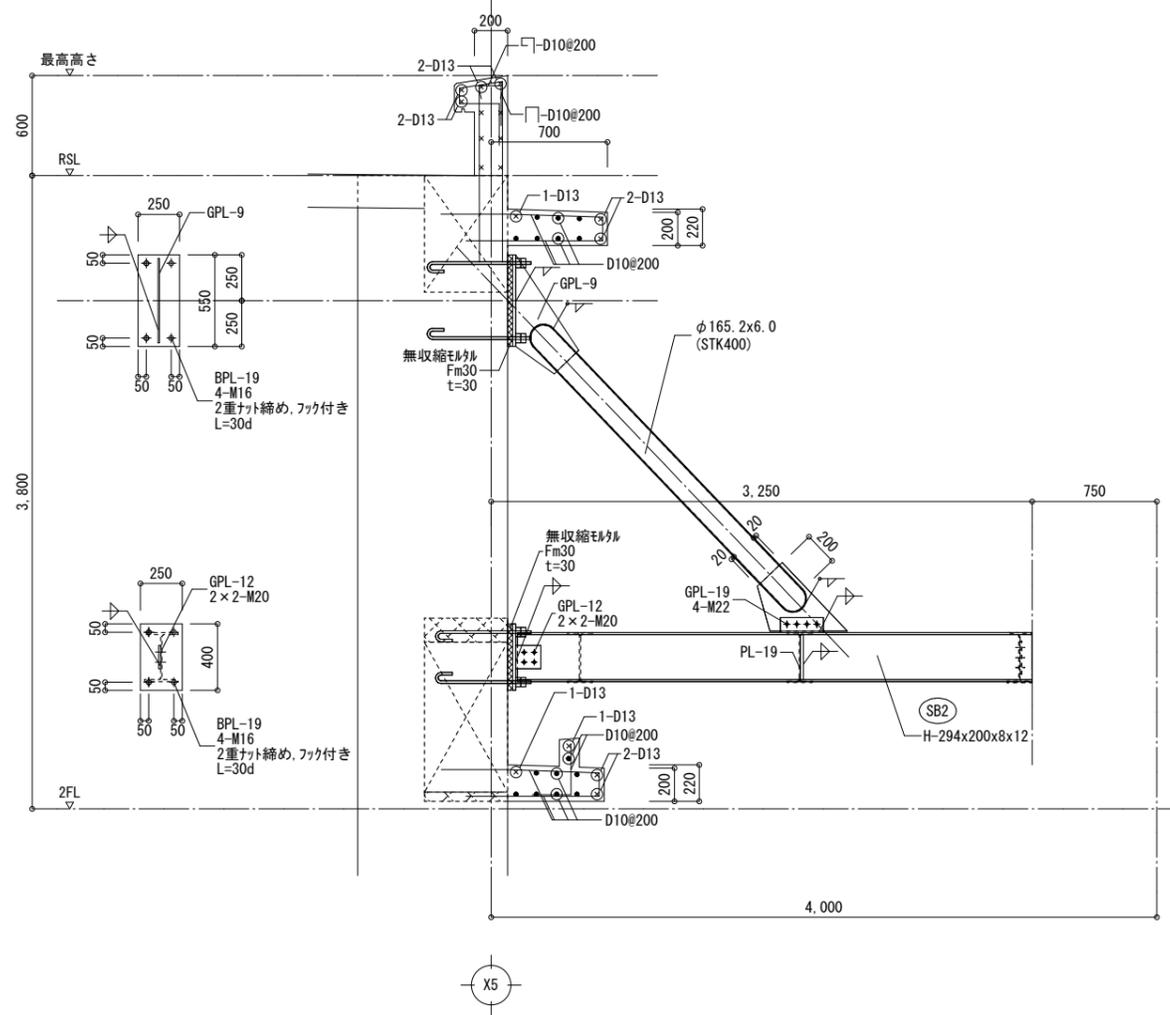
符号	断面	材質
SP1	H-175x175x7.5x11	SN400A
SB1	H-175x175x7.5x11	SN400A
SB2	H-294x200x 8x12	SN400A
SB3	H-300x150x6.5x 9	SN400A
SB4	H-200x100x5.5x 8	SN400A
SB5	H-200x200x 8x12	SN400A
V1	1-M16	SS400
V2	φ165.2x6.0	STK400

床版リスト S=1:50

符号	厚さ	支持状態	位置	短辺方向	長辺方向	備考
S1	180	四辺固定	上端筋	D13@200	D10D13@200	一般階スラブ
			下端筋	D10D13@200	D10 @200	
S2	200	四辺固定	上端筋	D13@150	D10D13@200	一般階スラブ
			下端筋	D10D13@150	D10 @200	
S3	150	四辺固定	上端筋	D10D13@200	D10 @200	屋上・一般階スラブ
			下端筋	D10 @200	D10 @200	
S4	150	四辺固定	上端筋	D10D13@200	D10 @200	室外機置場
			下端筋	D10 @200	D10 @200	
S5	150	四辺固定	上端筋	D10D13@200	D10 @200	バルコニー・一般階スラブ
			下端筋	D10 @200	D10 @200	
S6	200	四辺固定	上端筋	D13@100	D13@200	駐車場・倉庫
			下端筋	D10@100	D10D13@200	
S7	180	四辺固定	上端筋	D13@150	D10D13@200	資機材置場
			下端筋	D10D13@150	D10 @200	
S8	180	四辺固定	上端筋	D13@200	D10D13@200	資機材置場
			下端筋	D10D13@200	D10 @200	
S9	200	四辺固定	上端筋	D13@100	D13@200	移動式書庫
			下端筋	D10@100	D10D13@200	
S10	180	四辺固定	上端筋	D13@200	D10D13@200	一般階スラブ
			下端筋	D10D13@200	D10 @200	
S11	200	四辺固定	上端筋	D13@100	D16@150	倉庫
			下端筋	D10@100	D13@150	
FS20	200	四辺固定	上端筋	D13 @200	D10 @200	ビットスラブ
			下端筋	D13 @200	D10 @200	
FS25	250	CANT1	上端筋	D16 @150	D13 @200	ホースリフター基礎
			下端筋	D13 @150	D13 @200	
FS30	300	四辺固定	上端筋	D13 @150	D13 @200	ビットスラブ
			下端筋	D13 @150	D13 @200	
CS1	150~130	CANT1	上端筋	D10D13@200	D10 @200	
			下端筋	D10 @200	D10 @200	
CS2	210~180	CANT1	上端筋	D13D10@150	D10 @200	
			下端筋	D10 @150	D10 @200	
CS3	250	CANT1	上端筋	D16D19@150	D10 @200	
			下端筋	D16 @150	D10 @200	

ホースリフター部材リスト S=1:50

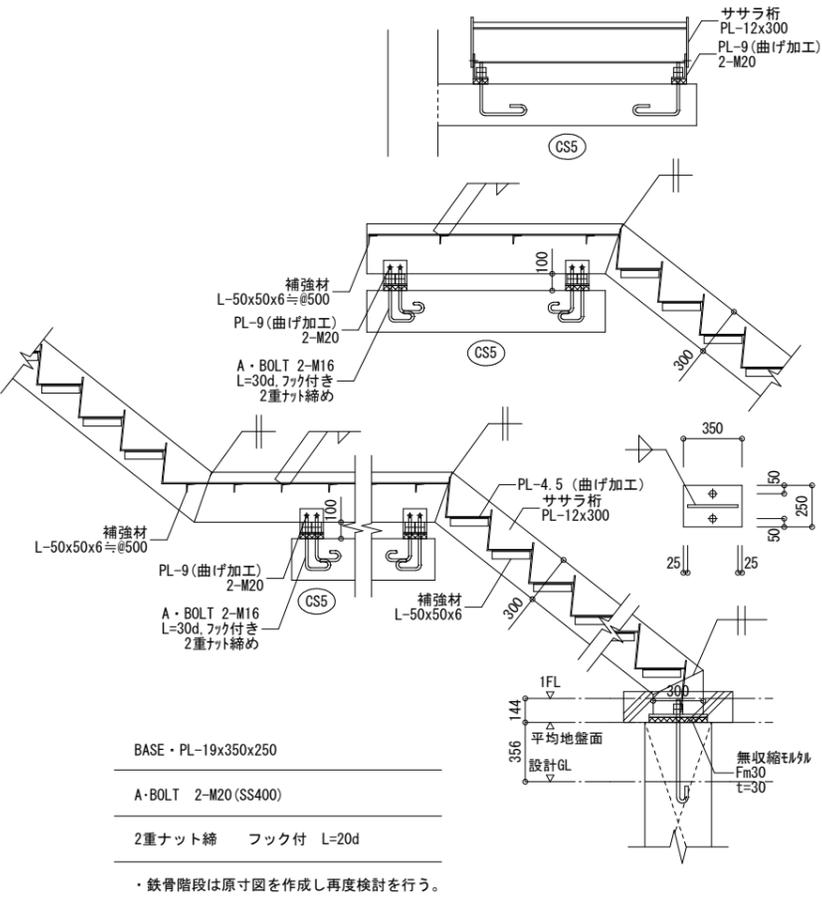
階	符号	P1	HB1
R	断面		
	B x D	350x600	550x400
	主筋	8-D19	8-D19
	フープ	□-D10 @200	□-D13 @200



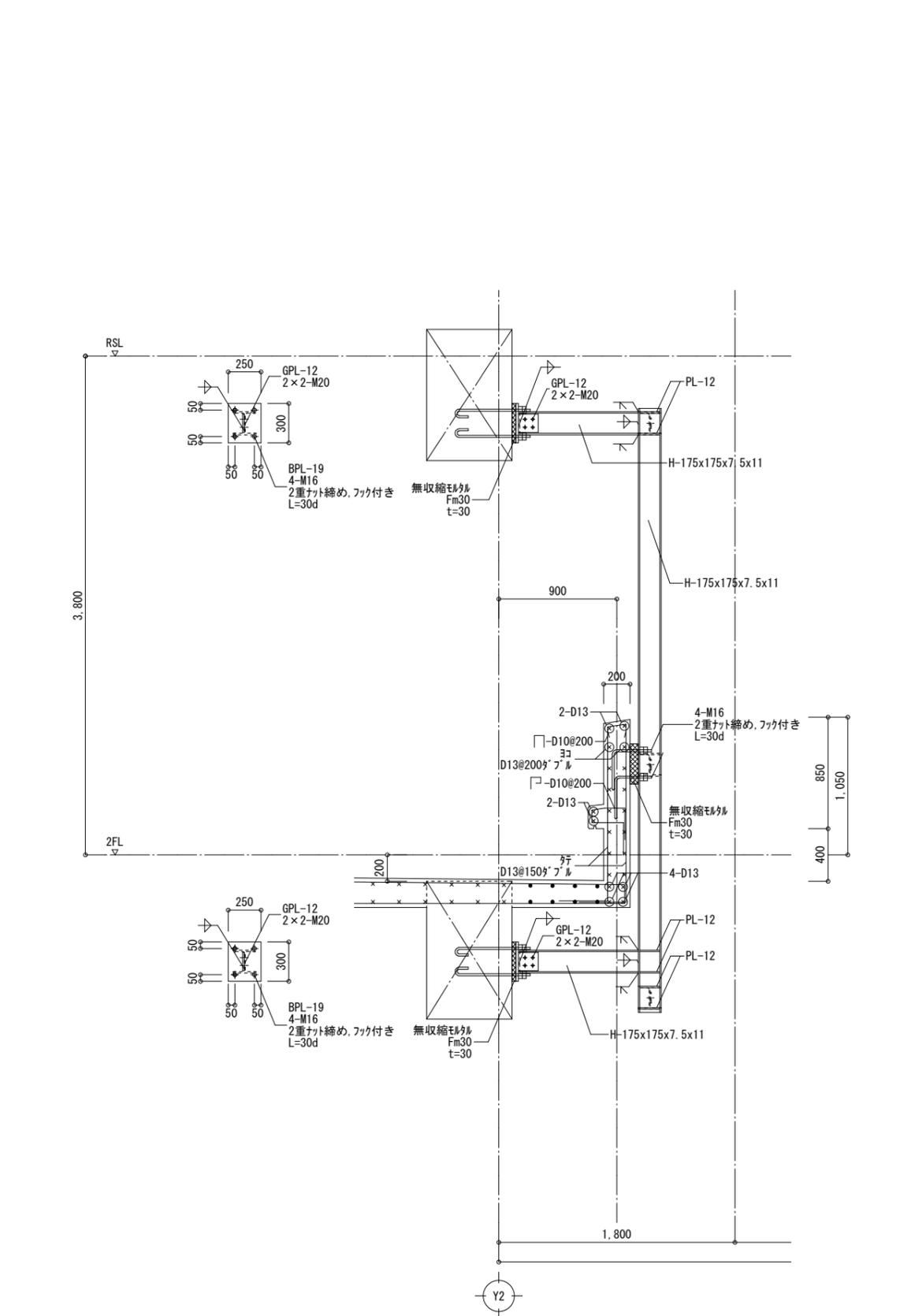
特記事項	工事名称	徳島中央広域連合西消防署新築工事	図面No.	S / 24	工事種別	構造	 株式会社 阿波設計事務所 四国支店 <small>一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号</small>	管理建築士	程野 祐介	設計No.	—
	図面名称	雑詳細図(1)	縮尺	A2(1/30)	校閱	大臣登録 第338983号		校閱	担当	製図	設計年月日

一級建築士245854(構造設計一級建築士3942) 金城 伊佐夫

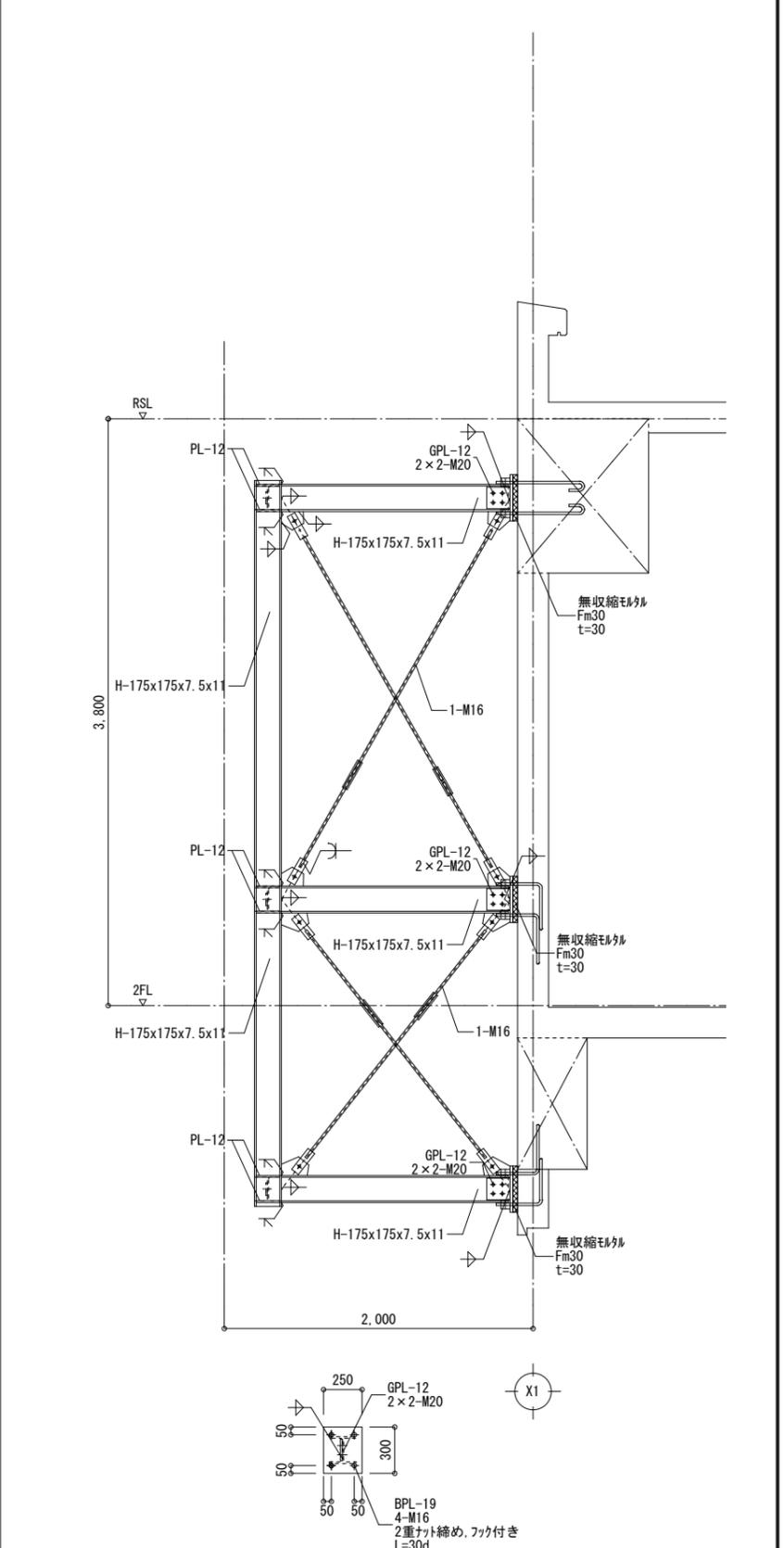
屋外階段詳細図 1:30



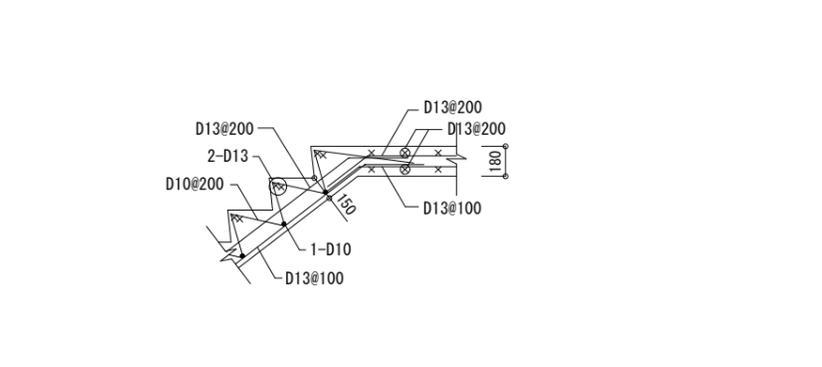
外部鉄骨取合詳細図 1:30



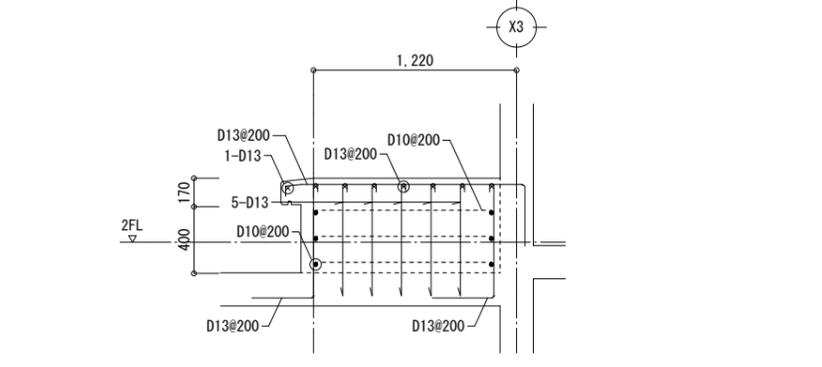
外部鉄骨取合詳細図 1:30



屋内階段詳細図 1:30



2階屋上 エコキュート基礎 配筋詳細図 1:30

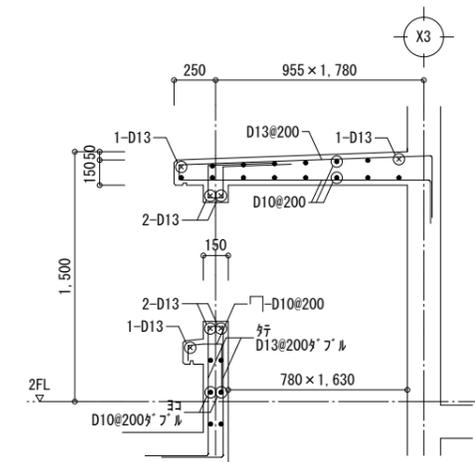
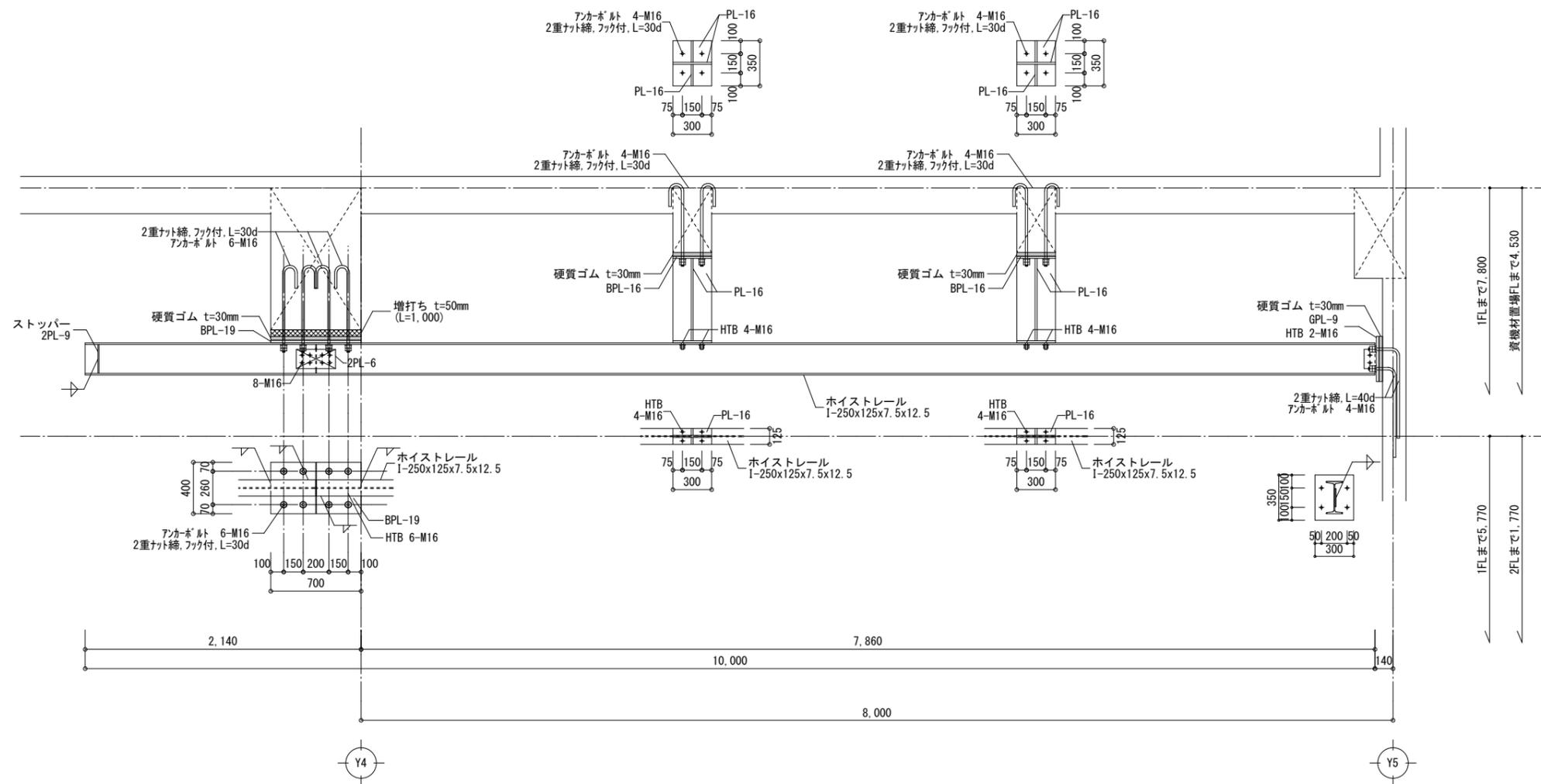


ホイストレール取付詳細図

1 : 30

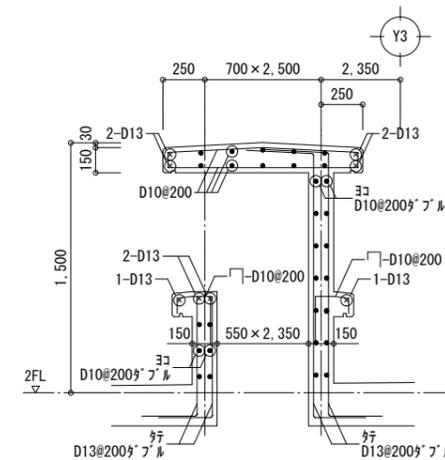
2階屋上 配管取り出し口 配筋詳細図

1 : 30



R階屋上 配管取り出し口 配筋詳細図

1 : 30



設備基礎 配筋詳細図

1 : 30

燃料小出槽基礎 配筋詳細図

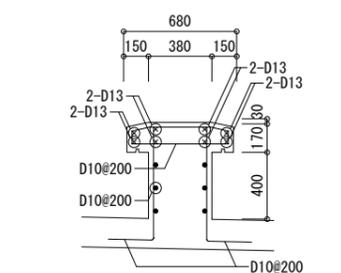
1 : 30

屋上～屋上室外機置場 配筋詳細図

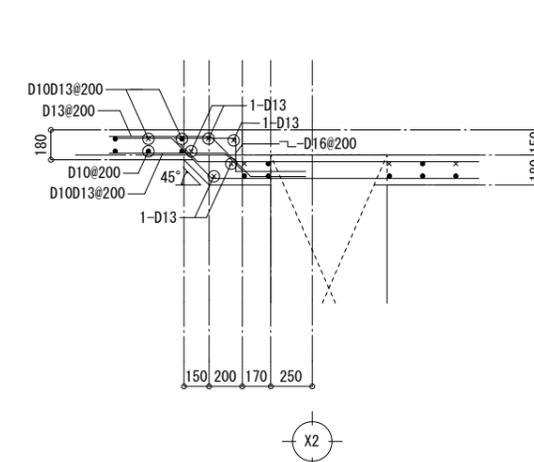
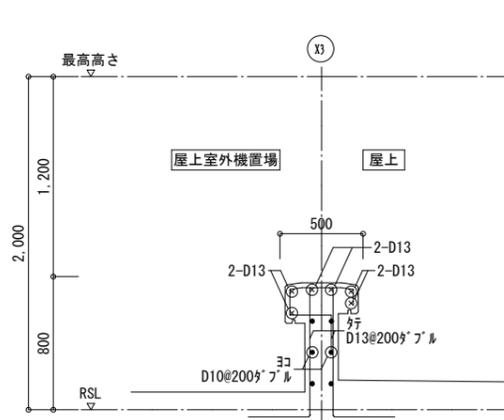
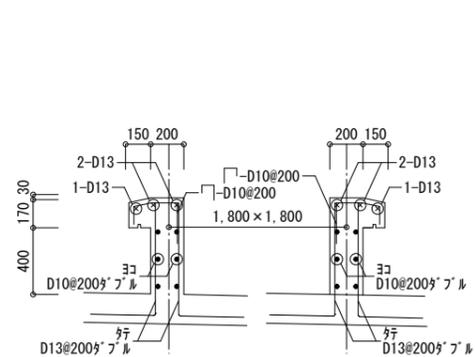
1 : 30

1階段違床 配筋詳細図

1 : 30



場所	機器	W×D×H	数量
屋上	貯水槽	3,030×680×600	2
屋上	柱上式受変電設備	4,680×680×600	2
屋上	非常用発電機	2,950×680×600	2
屋上	室外機	700×700×600	8
屋上	自動給水装置	1,580×1,280×600	1



現場打ち一体式PRC工事特記仕様書

1. 総 則

適用範囲	本仕様書は、本工事のうち、現場打ち一体式プレストレスト鉄筋コンクリート（以下、PRC）造について適用する。 本仕様書または設計図書に指示されていない事項は下記によること。また、これらに指示されていない事項は、 監理者の指示による。 ・建築基準法、同施行令 ・国総研・建築研究所監修 「プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例」（2009年版） ・日本建築学会 「プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説」（1998年版） ・日本建築学会 「プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種PC）構造設計・施工指針・同解説」（2003年版） ・日本建築学会 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」（2015年版）
構造方式	本構造の方式は、鉄筋コンクリート（以下、RC）部材にPC鋼材を組み合わせた現場打ち一体式PRC造である。
プレストレス導入方式	プレストレス導入はポストテンション方式であり、その方式については“6. 緊張”の項に示す。
PC工事施工業者	PC工事の施工については、下記専業社のうち、一社の責任施工とする。 オリエンタル白石株式会社、株式会社 建研、株式会社 ピーエス三菱
施工計画	施工の順序・方法・工程などの施工計画は工事着手前によく検討し、その計画を監理者に提出して承認を受ける。

2. 材 料

鉄 筋	鉄筋は、JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）の規格に適合するものを使用する。
PC鋼材	PC鋼材は、JIS G 3536（PC鋼線及びPC鋼より線）またはJIS G 3109（PC鋼棒）に適合し、有害な傷の無いものを使用しなければならない。
セメント	1) セメントは、JIS R 5210（ポルトランドセメント）に規定する普通ポルトランドセメントを原則とする。 2) その他のセメントを使用する場合は、監理者の指示を受けること。
混和材料	コンクリート中に表面活性剤等の混和材料を用いる場合は、その品質、使用量について監理者の指示を受けること。

種 類	PC鋼より線
記 号	SWPR7BL
呼 び 名	7本より12.7mm
引 張 強 度	183 kN
降 伏 荷 重	156 kN
伸 び	3.5 %以上

3. 型 枠

- 組立て・取外し
- 柱・梁等、PRC造部分の型枠については、十分な耐力を持つように留意しなければならない。
 - PRC造部分の型枠組立て順序については、PC鋼材の配置に影響されて決定することが多いので注意しなければならない。
 - PC梁型枠の組み立ては、PC鋼材の配置作業を考慮して、下図実線部を先に組み、鉄筋及びPC鋼材配置後に、破線部を組み立てる。



- 柱・梁型枠の締め付けは、フォームタイ、及びボルト等により、十分強固にしなければならない。
- PC定着具が取り付く柱型枠の締め付け金物、バタ角、単管等は、PC鋼材位置を避けて配置する。
- 事前にセパレーターの配置計画を行い、PC鋼材（シース）に当たらないようにする。
- PRC造部分のサポートは、横つなぎ・筋交い等を十分に入れ、横力に対して安全な構造としなければならない。
- PRC造部分は、原則としてRC造の扱いであるため、型枠存置期間は、JASS5によること。
- PRC大梁に貫通孔を設ける場合には、事前に監理者と協議のうえ、決定すること。

4. 配 筋

- 鉄 筋
- 鉄筋は正確に配置し、コンクリート打設の際にくずれぬよう、強固に組み立てなければならない。
- PC鋼材
- PC鋼材は、下記の要領で正確に配置し、堅固に取り付けなければならない。
- 梁端の定着具は、コンクリートを打ち込む前に、型枠の内面に正確かつ強固に取り付けること。
 - PC鋼材を露天に放置して、錆等で損傷させてはならない。
 - グラウト用孔、及び排気孔は、十分に注意して取り扱い、コンクリート打設時に損傷することのないよう細心の注意をする。
 - PC鋼材の加工・組立てを行なう場合、加熱または溶接を行なってはならない。
 - PC鋼材定着具の露出部分は、プレストレス導入後すみやかにモルタル等で完全に保護しなければならない。
 - PC鋼材の配置後、コンクリート打設に先立ち、監理者の検査を受けなければならない。

5. コンクリート

- 品 質
- PRC造部分のコンクリートの調合は、下記を目安とする。
使用箇所 PRC造部
設計基準強度 27 N/mm²
プレ導入時強度 20 N/mm²
 - コンクリート強度試験用供試体の採取、及び養生は下記による。ただし、この供試体本数は、プレストレス導入時強度確認用として、下記を採取すること。
- | | | | | | |
|------|----|-------|-----|----|----|
| | 7日 | プレ導入前 | 28日 | 予備 | 合計 |
| 現場養生 | — | 3本 | — | — | 3本 |
- ・プレストレス導入時強度の確認は、現場養生（現場水中養生、または、現場封かん養生）によること。
・プレストレス導入時圧縮強度試験は、一般構造図に記載された方法と同じとする。

打 設

- PC鋼材、鉄筋、型枠、及び定着具が、移動したり損傷したりしないよう注意する。
- PC鋼材のケーブルシース内には、セメントペーストが入ってはならない。
- ケーブルシースには、パイプレーターが直接触れないように細心の注意を払うこと。
- PC鋼材定着部の割裂補強筋は、コンクリート打設前に完全に配置しなければならない。
- コンクリートの打込みは、打設場所にてできる限り近づけて垂直に打ち込み、“片押し打ち”は避けなければならない。
- 原則として、PRC造部分におけるコンクリートの打継ぎは、行なってはならない。

6. 緊 張

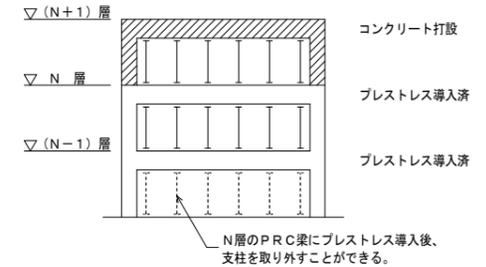
- 準 備
- 緊張装置は、事前にキャリブレーションを行ない、常に正常な状態にあるよう管理し、コンクリートが所定の強度 20N/mm^2 に達したことを確認のうえ、監理者の指示によりプレストレス導入作業を行なうこと。
- 順 序
- プレストレス導入順序は、PRC大梁に対して局部的に完了せず、構造全体にわたって進めなければならない。
 - 多層の建築物において、特記なき限り、PRC大梁は直上階のコンクリート打設前にプレストレスを導入すること。
- 緊 張 力
- 現場におけるPC鋼材の施工時緊張力は、下記による。
- | 使用箇所 | 呼 び 名 | 施工時緊張力 |
|-------|----------------|--------|
| PRC大梁 | 6-SWPR7BLφ12.7 | 768 kN |
- 緊張の管理は、緊張装置の圧力計（マンメーター）、及び事前に計算によって求めたPC鋼材の伸び量とによって入念に行なうこと。

7. グラウチング

- 調 合
- グラウトの品質は、下表を標準とする。
- | グラウトタイプ | ノンブリージング型
(混和剤タイプ、プレミックスタイプ) |
|---------|---------------------------------|
| 4週圧縮強度 | 30N/mm ² 以上 |
- グラウトの調合・使用セメントは、使用するグラウト用混和剤等の仕様による。他の混和剤を使用する場合は、監理者と協議の上、決定すること。
- 作 業
- グラウチング作業は、下記の要領で行なうこと。
- シース他端より流出するグラウトが、注入するグラウトと同じ濃度になるまで注入を続ける。
 - 排出口のグラウトが、所定の濃度になったのを確認した後排出口を閉じ、グラウトポンプの圧力がある程度上げて注入口を閉じる。
 - グラウトの注入は、原則としてグラウトが低い所から高い所に向かって侵入していくようにすること。
 - グラウトが凍結する恐れのある時期は、原則として作業を行なわない。

8. 支 保 工

- 計 画
- PRC大梁は、通常の大梁に比べて負担重量が大きいので、変形、耐力等を十分に検討し計画すること。
- 取 外 し
- PRC大梁の支保工は、プレストレスの導入が完了するまでは絶対に取り外さないこと。
 - 多層の建築物では、プレストレス導入が完了した下部2層以上のPRC大梁によって、導入されていない上部1層のPRC大梁を支えることを原則とする。



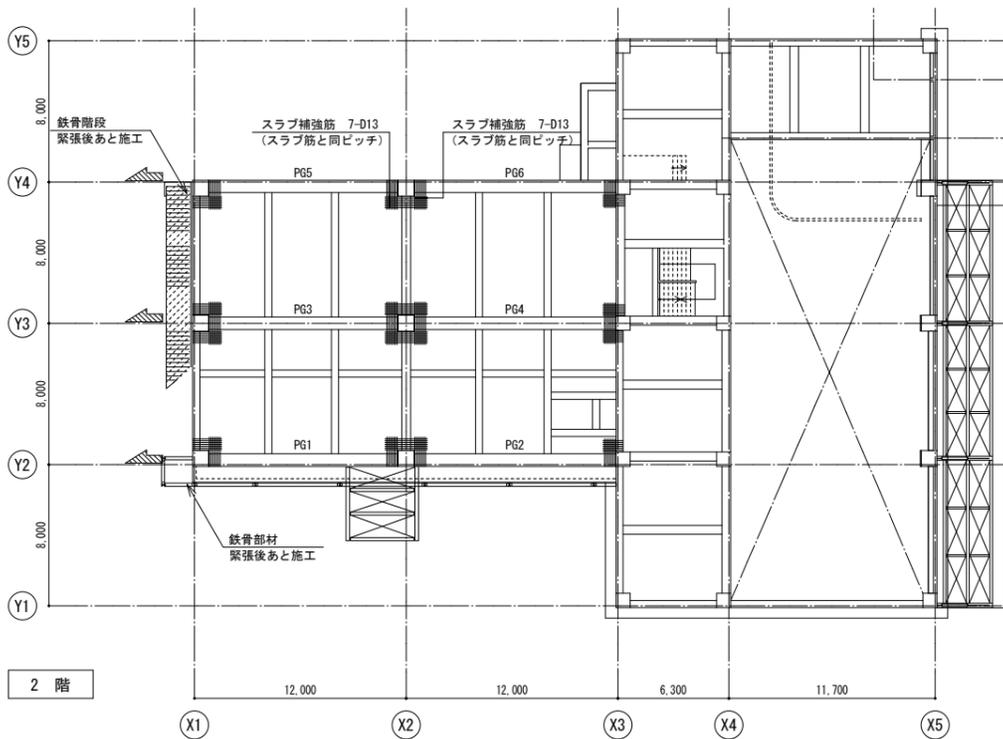
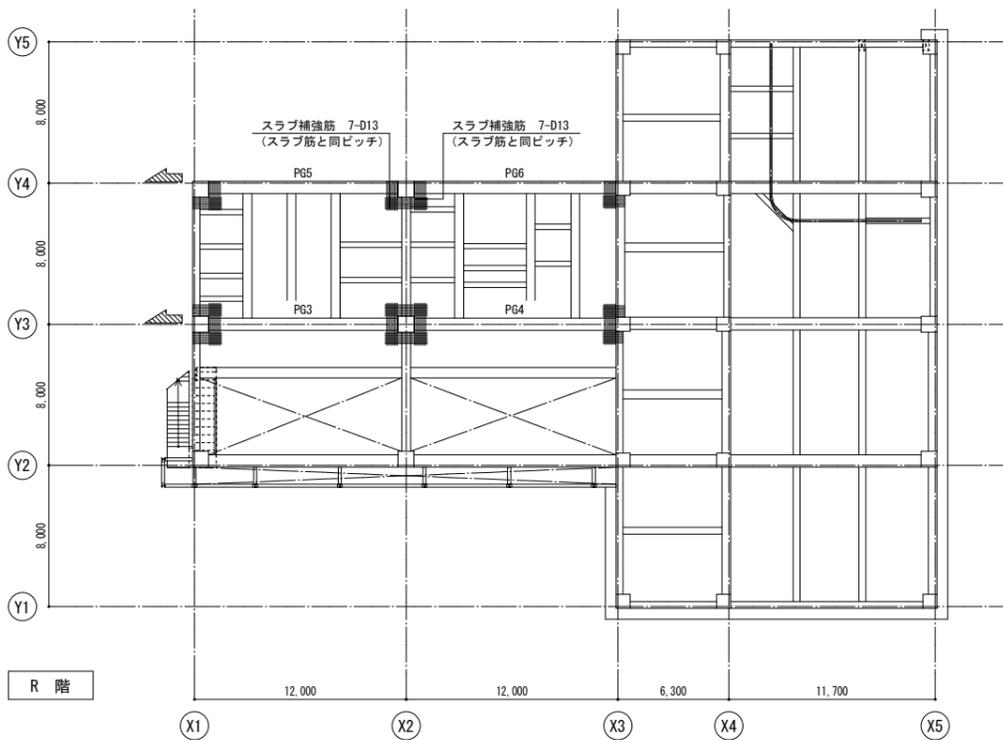
9. そ の 他

- 小 梁 配 筋
- PRC大梁に直交する小梁（PRC大梁に定着する大梁）について、下端筋がシースにあたる場合は、下図のように配筋すること。
-

- 貫通孔配置要領
- PRC大梁に貫通孔を設ける場合は、下記の要領で計画すること。
なお、梁貫通孔位置での断面検討を行い、開口補強筋を適宜配置すること。
-
- ・内法スパン両端から2Dの範囲には貫通孔を設けない。
・貫通孔の径(φ)はD/5以下を原則とする。
・貫通孔の外周とシース外周は、60mm以上離すこと。
- ※1 貫通孔が並列する場合、間隔は(φ1+φ2)×1.5、かつ、梁せいD以上とする。

定着端部の処理

- PC鋼材定着具の穴埋めについて、工事範囲は下記の通りとする。
-



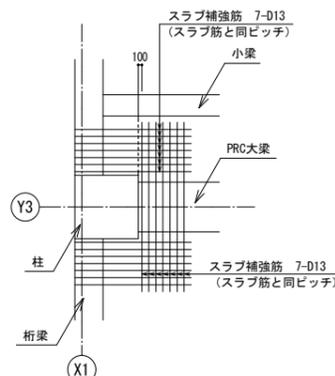
KEY PLAN S=1/200

注) 斜線は、緊張端を示す。

プレストレスト鉄筋コンクリートに関する事項

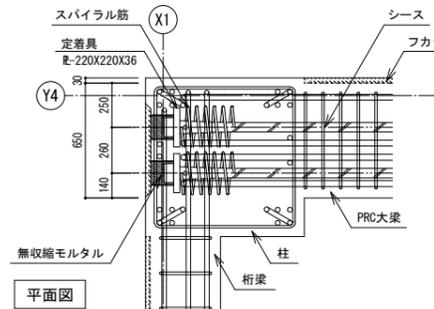
1. コンクリート設計基準強度	27 N/mm ²
2. プレストレス導入時強度	20 N/mm ²
3. 施工上の注意	X1端からの片引きとする。

1. 使用箇所	RF・2F
2. 使用鋼材	6-SWPR7BLφ12.7
3. 引張強度	1,098 kN
4. 降伏荷重	936 kN
5. 施工時鋼材緊張力	768 kN

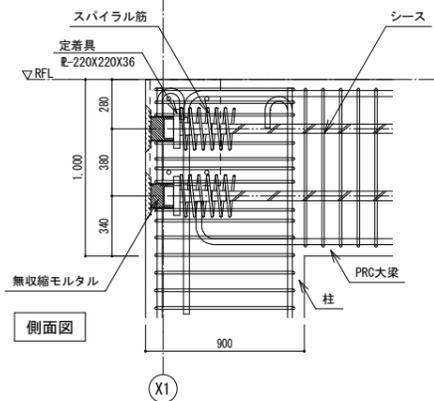


スラブ補強筋要領図 S=1/50

RF Y4通りX1軸

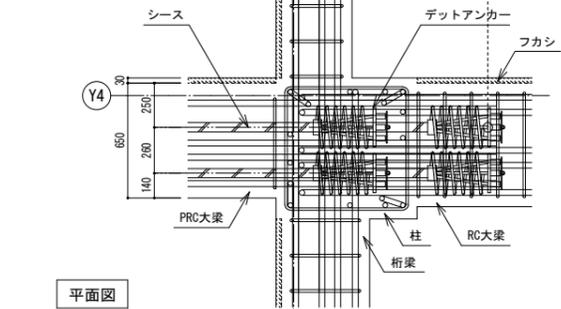


平面図

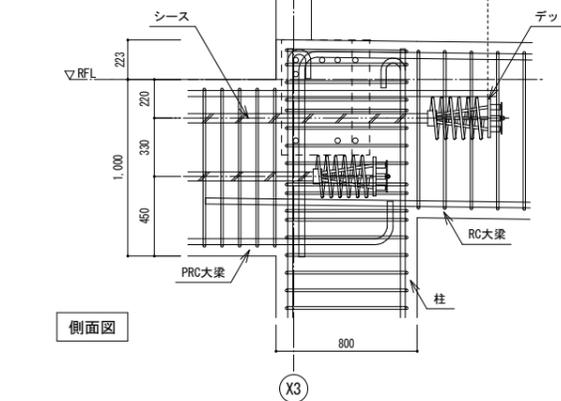


側面図

RF Y4通りX3軸

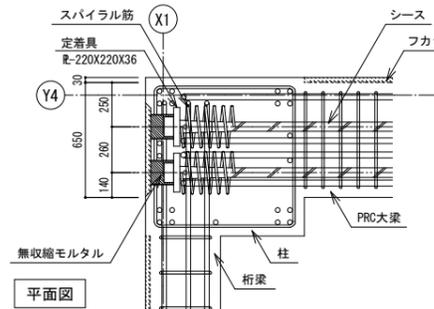


平面図

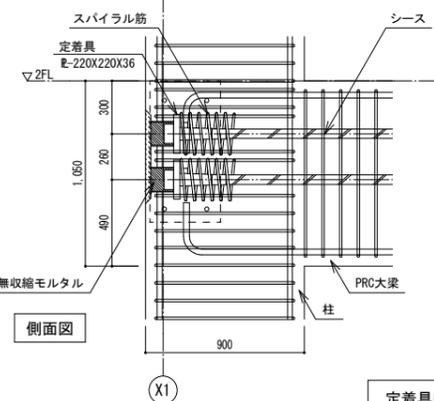


側面図

2F Y4通りX1軸

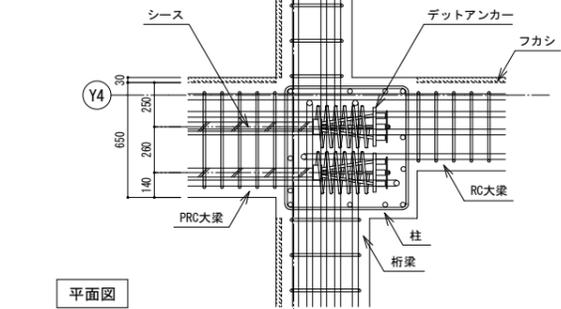


平面図

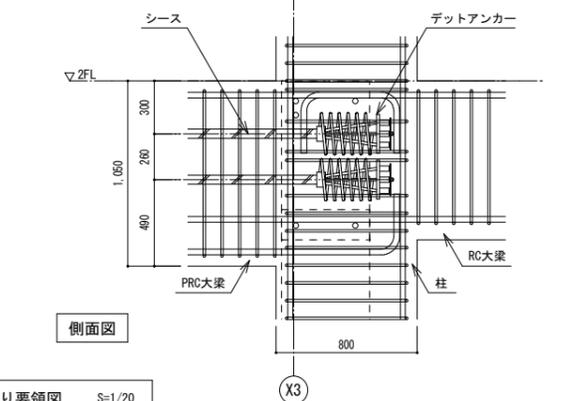


側面図

2F Y4通りX3軸



平面図



側面図

定着具納まり要領図 S=1/20

注) 配筋は、各リスト参照のこと。

・柱主筋は、定着具及びスライスの位置を避けて配筋すること。

一級建築士245854(構造設計一級建築士3942) 金城 伊佐夫

特記事項

工事名称 徳島中央広域連合西消防署新築工事

図面No. S / 29

工事種別 構造

図面名称 PRC大梁関係図

縮尺 A2(1/283, 71, 28)

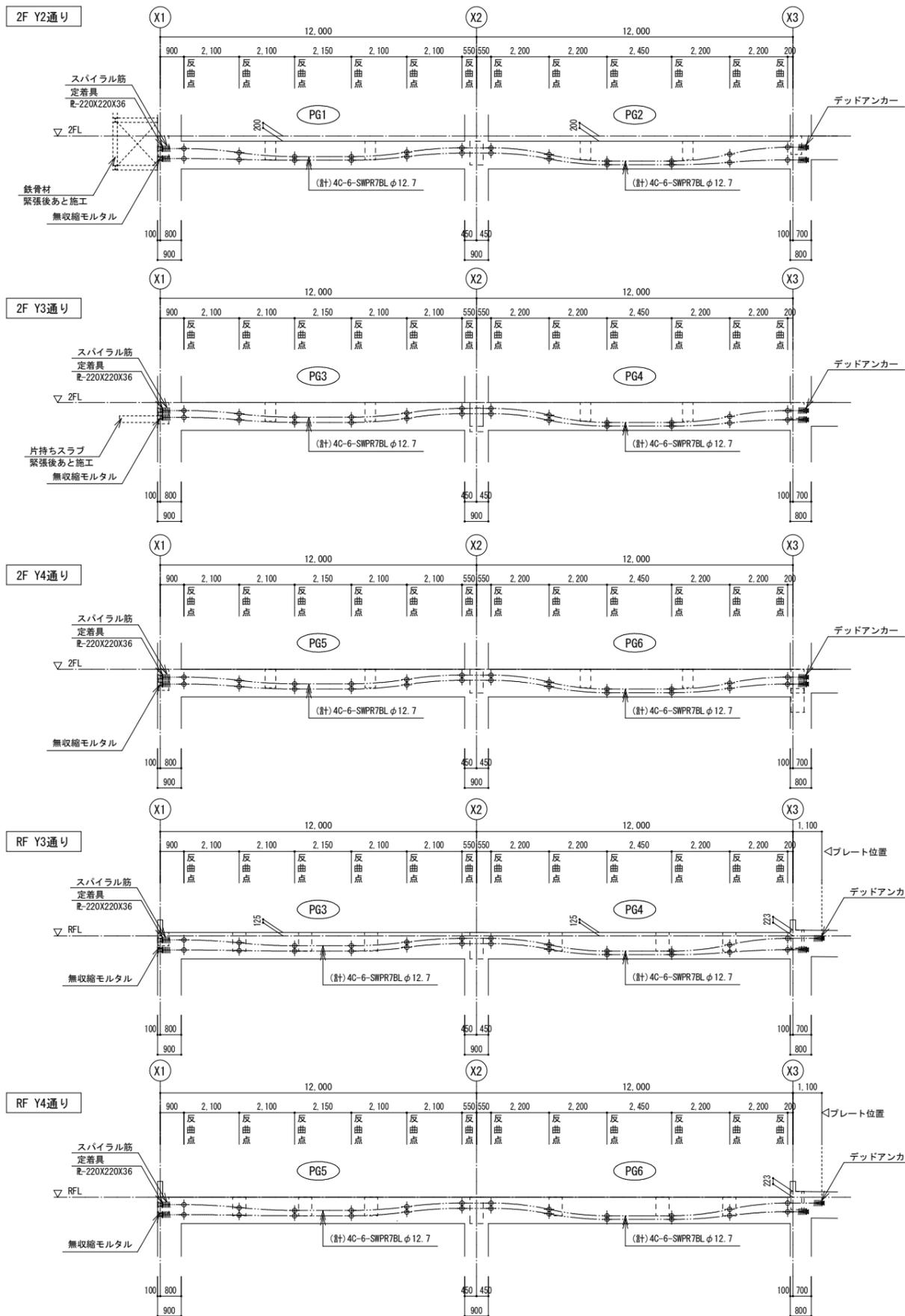
株式会社 阿波設計事務所 四国支店
一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号

管理建築士 程野 祐介
一級建築士 大臣登録 第338983号

校閲 担当 製図

設計No. -

設計年月日 2017. 9



符号	PG1			PG2		
	X1 端	中央	X2 端	X2 端	中央	X3 端
2階						
PC鋼材	4C-6-SWPR7BL φ12.7			4C-6-SWPR7BL φ12.7		
上端筋	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100
腹筋	4-D13			4-D13		
符号	PG3			PG4		
	X1 端	中央	X2 端	X2 端	中央	X3 端
R階						
PC鋼材	4C-6-SWPR7BL φ12.7			4C-6-SWPR7BL φ12.7		
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100
腹筋	4-D13			4-D13		
符号	PG5			PG6		
	X1 端	中央	X2 端	X2 端	中央	X3 端
2階						
PC鋼材	4C-6-SWPR7BL φ12.7			4C-6-SWPR7BL φ12.7		
上端筋	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100
腹筋	4-D13			4-D13		
符号	PG5			PG6		
	X1 端	中央	X2 端	X2 端	中央	X3 端
R階						
PC鋼材	4C-6-SWPR7BL φ12.7			4C-6-SWPR7BL φ12.7		
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100
腹筋	4-D13			4-D13		
符号	PG5			PG6		
	X1 端	中央	X2 端	X2 端	中央	X3 端
2階						
PC鋼材	4C-6-SWPR7BL φ12.7			4C-6-SWPR7BL φ12.7		
上端筋	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100
腹筋	4-D13			4-D13		

特記事項

工事名称 徳島中央広域連合西消防署新築工事
 図面名称 PRC大梁配線図・PRC大梁リスト

図面No. S / 30
 縮尺 A2 (1/141.57)

株式会社 阿波設計事務所 四国支店
 一級建築士事務所 徳島県知事登録 第41036号

管理建築士 程野 祐介
 一級建築士 大臣登録 第338983号
 校閲 担当 製図

一級建築士245854
 (構造設計一級建築士3942)
 金城 伊佐夫

設計No. ー
 設計年月日 2017.9